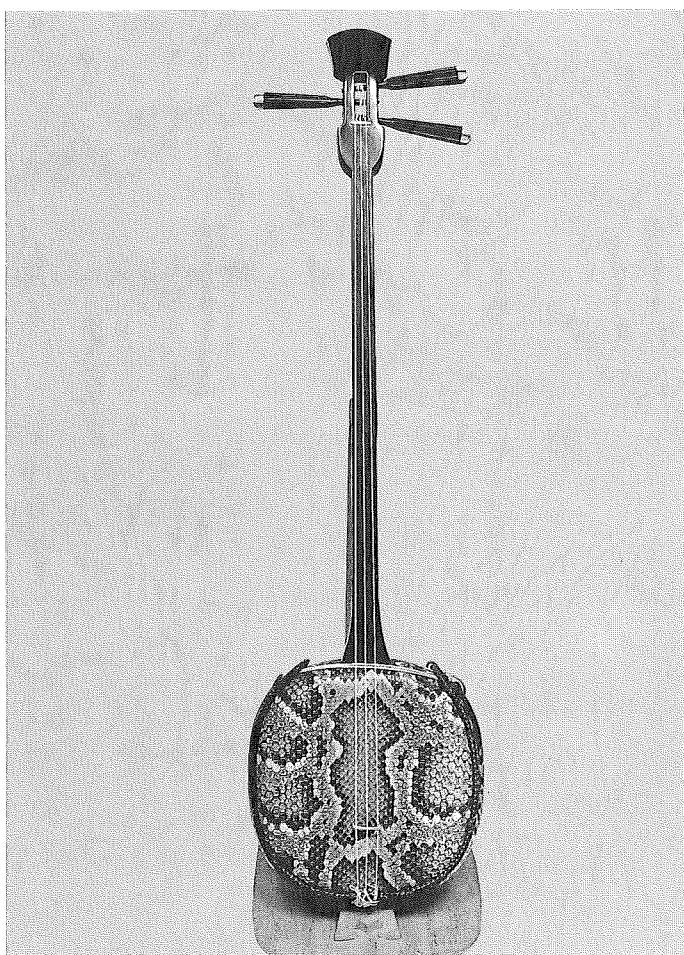


ISSN 0385-0293

沖縄県立博物館年報

No.32



1999

沖縄県立博物館

覽用
コーナー

表紙写真：平成11年2月19日 ロスアンジェルス在のセイジ（盛次）・ジミー・ヤギ（屋宣）氏
から寄贈された「三線 健堅与那」

序

平素から博物館事業にご指導、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、平成10年度（1998年）は、当館にとりまして一貫の館史を得ることができたことを県民とともに慶びたいと思います。

本年度の特別展は、「包むこころ ふろしき展」を11月17日から12月20日まで開催しました。日本人に馴染みの深い風呂敷の歴史やその活用方や、沖縄独特の紅型技法による「ウチクイ」の大型の風呂敷など多くの県民にとって、風呂敷の良さや実用性を啓蒙することができた特別展でした。

企画展では、恒例の「新収蔵品展」を8月18日から9月27日まで開催しました。また、「琉球王国時代の植物標本展」を7月10日から8月9日まで開催しました。1853年にペリー提督が琉球で収集した植物標本を144年ぶりに里帰りさせた展示会で、多くの植物愛好家をはじめとする県民の目を楽しませてくれました。

23回目を重ねた移動博物館は、10月16日から18日まで3日間、伊是名村離島振興総合センターで開催されました。また、自然観察会も合わせて催されました。延べ644人の村民が同事業に参加されました。

当館恒例の博物館文化講座は280回から290回までの11回開催し、いよいよ大台の300回目を目前とされています。関連講座の夏休み親子文化講座は「植物観察会」、「沖縄の織物について」、「標本鑑定会」を実施しました。特別文化講座では3月13日に豊見城村文化協会及び豊見城村教育委員会の共催を得て、組踊「未生の縁」を上演し、多くの観客を魅了しました。子ども体験学習教室では、「芋とイモ料理を作ろう」、「沖縄の岩石しらべ」、「古代人のくらしを体験しよう」、「はりこのおもちゃを作ろう」、「黒砂糖づくり」を実施し、延べ727人の子どもたちが参加しました。

博物館シアターはアニメシリーズと世界のなつかしの名作を合わせて5本上映しました。後発の博物館シアターも年々事業として定着し、多くの鑑賞者の注目を集めています。

また、調査研究事業では、当館職員の総力をあげて今年度から3年計画で西表島総合調査がスタートしました。沖縄島に次いで県内で二番目の面積を誇る西表島は亜熱帯の貴重な自然に加えて「節祭」など興味深い民俗や歴史があります。実り多い調査ができますように、館長以下全学芸員の力量が試されています。

今後とも、当館は特別展や企画展、文化講座、各種の教育普及的事業を充実させていく所存です。より一層のご指導、ご協力をお願い申しあげます。

平成11年7月10日

沖縄県立博物館

館長 大城将保

目 次

序	館長 大城 将保
I 概要		
1 沿革	1
2 日誌（抄）	3
3 施設・設備	4
4 組織	5
5 沖縄県立博物館協議会	7
6 予算	8
II 入館者数		
1 入館者数	9
2 県内外児童生徒学生団体見学者	12
III 調査研究等の活動		
1 調査研究の概要	15
2 調査研究	18
3 講演等	19
4 著作論文等	22
5 職員研修	23
IV 展示活動		
1 展示活動の概要	26
2 常設展	26
3 特別展	30
4 企画展	33
5 移動博物館	39
V 教育普及活動		
1 教育普及活動の概要	44
2 博物館文化講座	44
3 夏休み親子文化講座	46
4 衛星通信を利用した公開講座	47
5 特別文化講座「組踊公演会」	47
6 博物館シアター	49
7 子ども体験学習教室	50
8 ボランティア活動	51
9 支援活動	53
VI 博物館実習	54
VII 資料の収集・保存管理		
1 収蔵資料現在高	56
2 平成10年度（1998）新収蔵資料高	56
3 平成10年度（1998）新収蔵資料目録	57
4 所蔵の指定文化財	59
5 収蔵資料整理事業	61
6 資料貸出	62
7 煙蒸処理	63
VIII 刊行物	64
IX その他の活動		
1 沖縄県博物館協会	65
2 沖縄県立博物館友の会	65
X 関係法規抄録	68

I 概 要

1 沿 革

[前史]

昭和11年（1936）沖縄県教育会附設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。一方、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、昭和21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

[創設]

昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、「東恩納博物館」と改称して、新発足。これが当館の創立にあたる。

[発展]

昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年（1955）には「琉球政府立博物館」と改称。また、同41年（1966）には現敷地に新館を建設して移転する。同47年（1972）の日本復帰に伴い名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年（1973）、2階を増築し展示スペースを拡充し、現在に至る。

[主な事項]

昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。

昭和22年（1947）12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管。「沖縄民政府立首里博物館」に改称。

昭和28年（1953）3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。5月、首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館が落成。

昭和30年（1955）9月「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」と改称。

昭和40年（1965）大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入。

昭和41年（1966）10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し、移転。11月に開館。

昭和47年（1972）2月、サントリー美術館との共催で、「50年前の沖縄」写真展を開催。5月、日本復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称。

昭和48年（1973）2月、国庫補助により2階部を増築し、展示室を3室増設。

昭和51年（1976）4月、創立30周年記念式典を行う。

昭和55年（1980）1月、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」開催。

2月、「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後毎年離島市町村で実施。

11月、特別展「失われた生物たち—大恐竜展」開催。

昭和56年（1981）3月30日付け、博物館法に基づき、「登録博物館」として登録。

10月、特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」開催。

昭和57年（1982）5月、新たに常設展として自然部門を設置。

10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展—熊本の歴史と文化」開催。

昭和58年（1983）11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展沖縄の美—風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催。

昭和60年（1985）11月、特別展「グスク—グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」開催

昭和61年（1986）2月、特別展「美術工芸の美を求めて—大嶺薰コレクション」開催。

昭和62年（1987）10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画—物故作家」開催。

12月、企画展「田名家収蔵品展—ある首里士族の400年」開催。

12月、企画展「現代沖縄の陶芸—天野鉄夫コレクション」開催。

昭和63年（1988）8月、特別展「ヤンバルの自然」開催。
11月、特別展「三線名器100挺展」開催。
平成元年（1989）11月、特別展「インドネシア更紗展」開催。
平成2年（1990）1月、特別展「大アンデス文明展」開催。
平成3年（1991）10月、特別展「アジアの祭りと芸能」開催。
平成4年（1992）6月、特別展「古代メキシコ至宝展」開催。
8月、特別展「沖縄の貝類展」開催。
10月、特別展「琉球王国展」開催。
平成5年（1993）1月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」開催。
8月、特別展「沖縄の川と生きもの」開催。
平成6年（1994）7月、特別展「子どもの世界」開催。
平成7年（1995）6月、戦後50周年記念特別展「蘇る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」開催。
平成8年（1996）7月、特別展「大久米島展」開催。
12月、企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」開催。
創立50周年式典を行う。

平成9年（1997）4月、特別展「アルゼンチンの大恐竜展」開催。
平成10年（1998）7月、企画展「琉球王国時代の植物標本展」開催。

〔歴代館長〕

東恩納博物館・首里博物館

大嶺 薫（昭和21年4月～28年3月・東恩納博物館）
豊平良顕（昭和22年12月～23年3月・首里博物館）
原田貞吉（昭和23年8月～28年3月・" "）

沖縄民政府立首里博物館

原田貞吉（昭和28年3月～30年5月）

琉球政府立博物館

山里永吉（昭和30年5月～33年8月）
金城増太郎（昭和33年9月～36年12月）
大城知善（昭和37年2月～44年11月）

沖縄県立博物館

外間正幸（昭和44年12月～56年3月）
大城徳次郎（昭和56年4月～58年3月）
大城立裕（昭和58年4月～61年3月）
大城宗清（昭和61年4月～平成4年3月）
宜保榮治郎（平成4年4月～6年3月）
糸数兼治（平成6年4月～8年3月）
當間一郎（平成8年4月～11年3月）
大城将保（平成11年4月～）

2 日誌抄

(平成10年4月1日～平成11年3月31日)

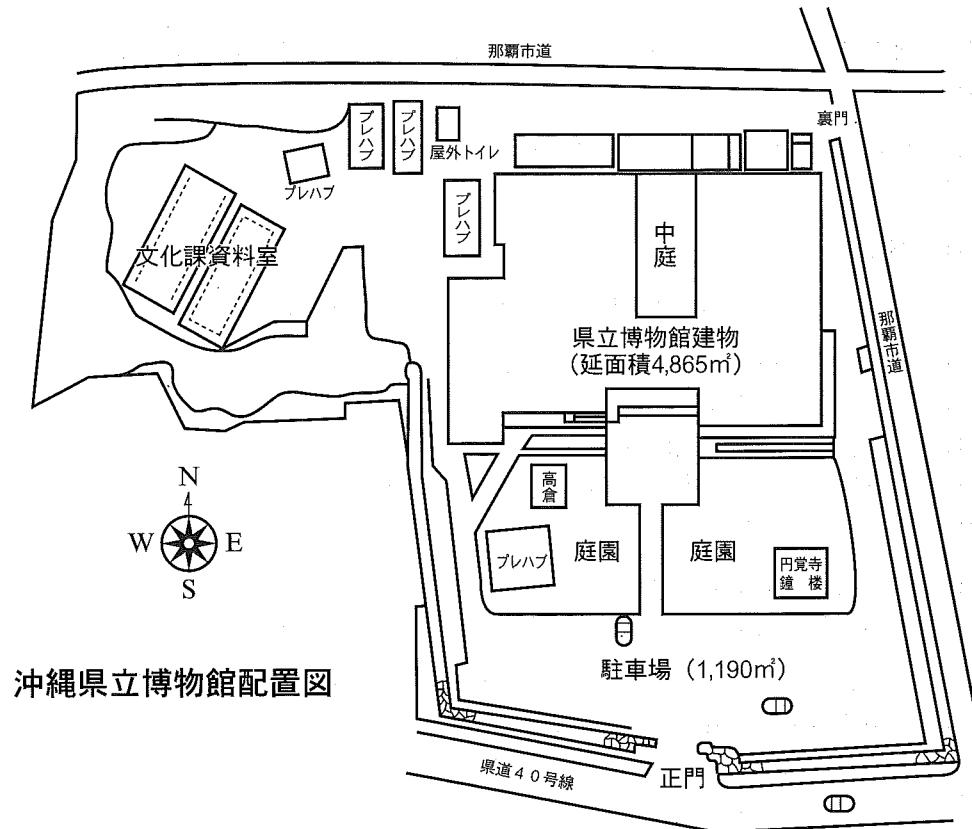
平成10年

- 4月23日 沖縄開発庁沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所所長井口義也氏来館
4月24日 多治見市議会一行来館
- 5月7日 県監査委員監査実施（石川修委員、与那霸参事）
5月13日 平成11年度特別展「三線展」展示検討委員委嘱状交付
- 6月22日 閉館し、館内燻蒸を実施（～6月26日）
- 7月10日 企画展「琉球王国時代の植物標本展—ペリーが持ち帰った植物たち—」開会式典
- 8月5日 文部省洋上研修一行（400名）来館
8月6日 國史館副館長朱重聖他来館
8月11日 沖縄総合事務局次長白波瀬氏来館
8月18日 企画展「平成9年度新収蔵品展」開催（～9月27日）
8月26日 沖縄県技監来館
- 9月18日 放送大学井上孝美氏来館
9月27日 旗頭那霸大綱挽の首里代表旗寄贈（瑞雲同好会長 嘉間政宏氏）
- 10月5日 県議会社大党県議（大城一馬氏、当山全弘氏、石川修氏）来館
10月15日 琉中農林水産交流会議一行来館
　　台湾省行政院文化建設委員会一行来館
10月22日 山口県立博物館長来館
10月30日 全国国立大学理学系学長会議一行来館
- 11月12日 文化庁文化財保護部伝統文化課長来館
11月16日 京都大学施設部建築課長補佐石橋安雄他来館
11月17日 文部省生涯学習振興課職員来館
　　特別展『包むこころ ふろしき展』開会式典
- 11月26日 宮崎市教育委員会財団法人宮崎文化振興協会みやざき歴史文化館指導主事待木順一氏
來館
- 12月15日 沖縄県立博物館協議会開催

平成11年

- 1月26日 消防訓練（館内）
3月13日 組踊講演会（未生の縁）
3月16日 沖縄県立博物館協議会開会

3 施設・設備

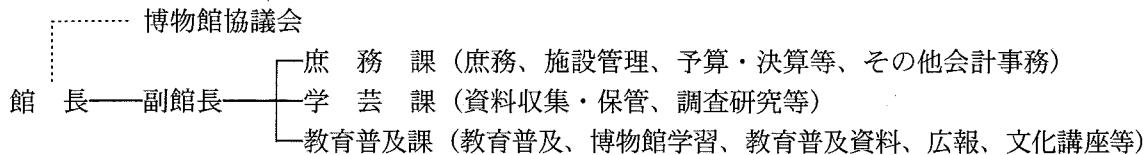


施設規模

●敷地面積 11,267m ²	エアハンドリングユニット 6基
●建物延べ面積 4,865m ²	パッケージ型エアコン
1階及び講堂部分 2,893m ²	66,000Kcal/h × 1基
2階部分 1,571m ²	28,000Kcal/h × 1基
地下部分 401m ²	20,000Kcal/h × 1基
●展示面積 1,590m ²	8,400Kcal/h × 1基
1階 632m ²	7,100Kcal/h × 2基
2階 958m ²	5,000Kcal/h × 2基
●ロビー面積 256m ²	2,000Kcal/h × 1基
●収蔵庫面積 1,048m ²	1,200Kcal/h × 1基
●駐車場面積 1,190m ²	
●庭園面積 1,612m ²	
●講堂 632m ²	
客席数215席	
●空調機能力	
ヒートポンプ式チーリングユニット 125,000Kcal/h × 2基	●受変電設備
	電灯 Tr 1φ3W 30KVA × 1基
	電灯・動力 Tr 3φ4W 100KVA × 1基
	動力 Tr 3φ3W 250KVA × 1基
	●契約電力 196KW

4 組織(平成11年4月1日現在)

(1) 組織



(2) 職員構成

職名	氏名	担当業務
館長	大城 将保	博物館業務の総理に関すること。
副館長	新垣 隆雄	館長の補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関すること。

庶務課

課長	喜友名 一郎	庶務課の総括、予算・決算、財産管理(財産・鍵・公印の保管等)、会計監査、沖縄県立博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他庶務に関すること。
主査	宮城直子	会計事務(旅費・報償費・超勤手当を除く)、決算事務文書等の収受、切手等の管理に関すること。
主査	平安名 寿賀子	給与、歳入、会計事務(旅費・報償費・超勤手当)、諸手当の認定、出勤簿整理、非常勤職員の任用申請、図書類・消耗品受け入れに関すること。
主任技師	真保栄 勝	施設設備の保守管理、全館燻蒸、車両の管理、防火管理補助、その他庶務に関すること。

学芸課

課長	大城 慧	学芸業務全般の総括、考古資料、学芸員会議、学芸員研修、博物館学芸員実習、沖博協に関すること。
主任学芸員	與那嶺 一子	美術工芸資料(染織・書跡)、収蔵品台帳、博物館年報の発行、博物館資料・写真資料貸出、レプリカ作成、博物館資料購入・修理に関すること。
主任(学芸員)	園原 謙	歴史資料、レプリカ作成、博物館資料購入・修理、博物館年報の発行に関すること。
指導主事	神谷 厚昭	自然史資料(地質・化石)、化石資料整理、沖博協の書記・会計に関すること。
指導主事(充)	与那城 義春	自然史資料(植物・動物)、総合調査、図書資料購入、博物館紀要の発行、新収蔵品展に関すること。
" (")	嵩原 建二	自然史資料(植物・動物)、収蔵資料整理(管理システム)、剥製標本に関すること。
" (")	津波古 聰	美術工芸資料(絵画・漆器・陶器)、収蔵資料整理(写真等)、新収蔵品展に関すること。
" (")	太田 健一	民俗資料、収蔵資料整理、特別展『三線展』に関すること。

教育普及課

課長	前田 真之	教育普及業務の総括、友の会への指導に関すること。
指導主事(充)	瑞慶山 昇	美術工芸資料(彫刻)、移動博物館、博物館シアター、教育普及機器整備、全館燻蒸、ポスター・チラシ等の作成、視聴覚教材(ビデオ)の保全・管理。
指導主事	仲底 善章	子ども体験学習教室、博物館学習の助言・調整、団体見学(小・中学校)の対応、博物館展示リーフレットの作成、図書購入、子供からの手紙相談に関すること。
指導主事(充)	伊波 悅子	ボランティア活動事業(登録含む)、団体見学・質問等(高校・大学)の対応、アンケート調査・回答、美術工芸資料、教育普及に関する情報・提供(行事案内)。
学芸員(臨任)	多良間 利絵子	文化講座、広報活動(マスコミ記者会見等)、夏休み親子文化講座、博物館だよりの発行、考古に関すること。

委託職員

教育普及補助員	上原 敏子 喜久川智子	教育普及、展示解説、寄贈図書受入れに関すること。
監視員	東美智子 金城民子 新城良子	受付補助及び展示場監視に関すること。
	小橋川敏子 松田昌子 比嘉春子	展示場監視に関すること。
緑化整備員	金城朝正	緑化整備に関すること。

沖縄県立博物館友の会

書記・会計	池宮城 啓子	博物館友の会の庶務会計に関すること。
-------	--------	--------------------

(3) 人事異動

平成11年4月1日現在

職名	氏名	摘要
【転出】 館長 主幹兼庶務課長 学芸員	當間一郎 津波古典子 萩尾俊章	定年退職(平11年3月31日付) 勧奨退職(平11年3月31日付) 教育庁文化課文化財係長へ(昇任)
【転入】 館長 主任(学芸員)	大城将保 園原謙	教育庁文化課長から館長(昇任)へ 教育庁文化課から

5 沖縄県立博物館協議会

第1回 日 時：平成10年12月15日(火) (10:30~13:00)

場 所：県立博物館会議室

会議事項

- (1) 予算の概要について
- (2) 学芸課事業概要について
- (3) 教育普及課事業概要について
- (4) その他

第2回 日 時：平成11年3月16日(火) (10:30~13:00)

場 所：県立博物館会議室

会議事項

- (1) 新年度予算の概要について
- (2) 特別展等事業概要について
- (3) 教育普及課事業概要について
- (4) その他

沖縄県立博物館協議会委員名簿（平成10年12月15日～平成12年12月14日）

	氏 名	所 属	職 名
学識経験者	翁 長 自 修	琉球大学（美術工芸）	教 授
	新城 和 治	元琉球大学（自然史）	元教 授
	金 城 正 篤	琉球大学（歴史）	教 授
	嵩 元 政 秀	沖縄考古学会（考古学）	会 長
	上江州 均	名桜大学（民俗）	教 授
学校関係者	喜 名 盛 文	沖縄県小学校校長会	副会長
	比 嘉 伝 福	那覇市公立小中学校校長会	副会長
社会教育関係者	仲 地 朝 明	沖縄県社会教育委員	議 長
	長 元 朝 豊	沖縄県PTA連合会	会 長
	小 祿 亮 子	沖縄県子ども育成連絡協議会	副会長

6 予 算

1. 平成10年度歳出決算状況

(単位：円)

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報酬	139,500	0	139,500
賃金	0	2,227,560	2,227,560
報償費	0	905,950	905,950
旅費	1,330,169	3,979,383	5,309,552
需用費	21,974,058	5,960,235	27,934,293
役務費	569,564	4,068,330	4,637,894
委託料	22,155,275	5,830,182	27,985,457
使用料及び賃借料	468,468	1,139,050	1,607,518
工事請負費	10,500,000	0	10,500,000
備品購入費	3,352,650	1,678,530	5,031,180
負担金補助及び交付金	75,000	5,500,000	5,575,000
公課費	18,900	0	18,900
合計	60,583,584	31,289,220	91,872,804

2. 平成10年度歳入決算状況

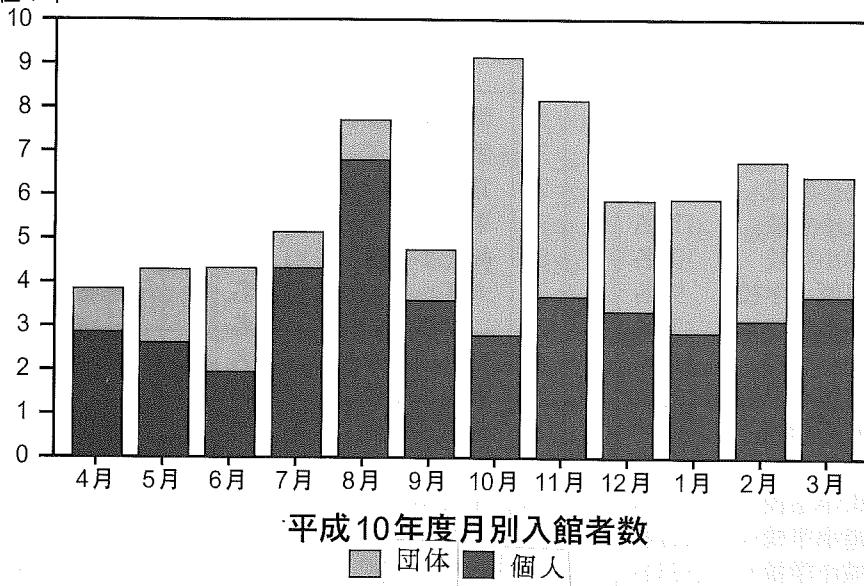
(単位：円)

	友の会等	特別展等	合計
博物館使用料	0	10,461,920	10,461,920
土地使用料	68,108		68,108
建物使用料	26,732		26,732
雑入	106,041		106,041
合計	200,881	10,461,920	10,662,801

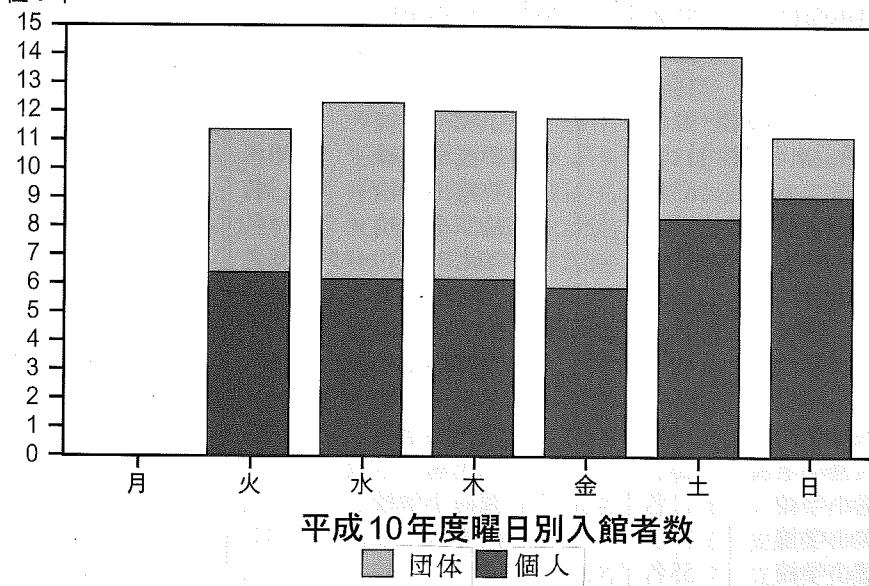
団体入館者数 (有料)

	県内						県外						国外						合計
	大人	高大生	小中生	小計	大人	高大生	小中生	小計	大人	高大生	小中生	小計	团体人数	团体人数	团体人数	团体人数	团体人数	团体数	
年月	团体数	团体人数	团体人数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体数	合計
平成10年4月	2	60			2	60	2	152	4	192	2	117	8	461					10 521
5月	1	20	1	33	2	92	4	145	2	200	3	218	2	274	7	692	2	42	13 879
6月	4	175			2	204	6	379	3	61	6	1,426	1	23	10	1,510	1	25	17 1,914
7月	5	117			3	108	8	225	4	154	1	62	1	42	6	258	1	17	3 1 20 15 503
8月	3	77	1	19	6	145	10	241	3	479	3	1	25	4	507				14 748
9月	3	167			2	3	169	6	377	6	469	6	12	852					15 1,021
10月	5	213			6	394	11	607	7	246	19	2,830	2	205	28	3,281	3	113	2 3 115 42 4,003
11月	2	68			3	105	5	173	5	165	16	1,990	3	260	24	2,415	1	30	1 30 30 2,618
12月	1	26			1	26	3	70	13	1,926	2	371	18	2,367					19 2,393
平成11年1月	2	88			2	88	3	78	1	319	3	183	7	580					9 668
2月	3	112			3	112	3	100	3	659	1	146	7	905					10 1,017
3月	2	86			2	44	4	130	2	45	10	1,286	2	402	14	1,733	1	47	19 1,910
合計	33	1,209	2	52	24	1,094	59	2,355	43	2,127	82	11,380	20	2,054	145	15,561	8	249	1 25 5 9 279 213 18,195

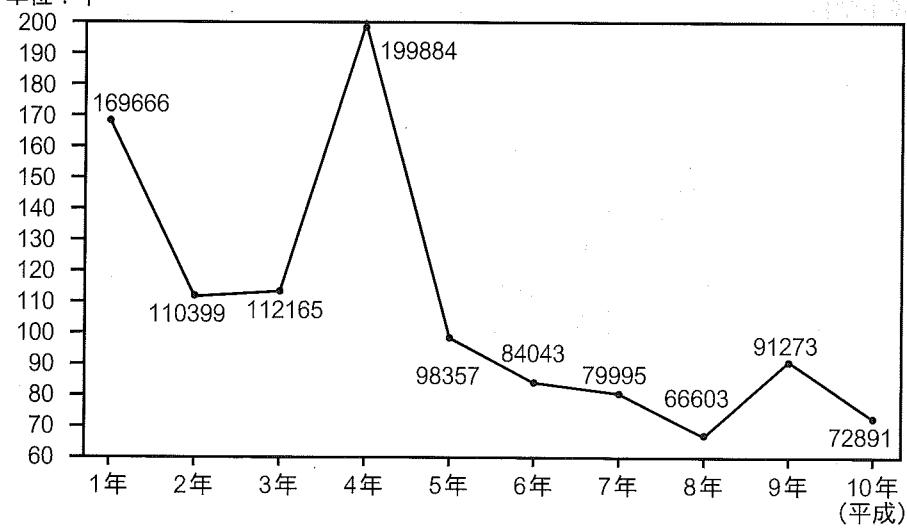
単位：千



単位：千



単位：千



2 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 11,637名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	14	城西小学校 35名	10	23	稻田小学校 23名	1	12	西原小学校 127名
	15	沖縄クリスチャントスクール 26名		23	楚洲小学校 3名		12	とよみ小学校 100名
	18	天妃小学校 126名		23	宜野座小学校 49名		13	松川小学校 134名
	18	識名小学校 178名		24	東江小学校 123名		13	曙小学校 80名
	28	光洋小学校 109名		24	和光小学校 113名		14	久茂地小学校 50名
5	1	南風原小学校 96名		27	大宮小学校 185名		19	石嶺小学校 138名
	2	松島小学校 139名		27	コザ小学校 94名		20	高良小学校 178名
	8	内間小学校 118名		28	真喜屋小学校 25名		21	識名小学校 130名
	19	伊良部小学校 42名		28	瀬底小学校 16名		22	古蔵小学校 160名
	21	鏡原小学校 23名		28	金武小学校 90名		27	西原南小学校 70名
	21	下地小学校 50名		29	清水小学校 44名		28	座安小学校 108名
	22	美東小学校 154名		30	屋良小学校 51名		29	城西小学校 141名
	28	大道小学校 117名		30	奥間小学校 34名		30	真和志小学校 105名
	28	西城小学校 23名		30	白川小学校 104名	2	2	沖縄三育小学校 16名
	30	北小学校 80名		30	室川小学校 84名		3	城東小学校 164名
6	4	砂川小学校 32名		30	屋良小学校 70名		4	大名小学校 50名
	4	久松小学校 52名	11	1	和光鶴川小学校 76名		5	光洋小学校 110名
	9	大原小学校 11名		4	与那原東小学校 94名		6	宇栄原小学校 96名
	11	平良市立南小学校 92名		4	上間小学校 148名		6	西崎小学校 133名
	11	平良市立東小学校 112名		4	伊波小学校 130名		9	前田小学校 115名
	18	北谷第二小学校 83名		5	牧港小学校 113名		10	城南小学校 109名
	18	平良第一小学校 124名		5	桃原小学校 4名		12	喜屋武小学校 18名
	20	福嶺小学校 11名		5	ガナエメンタースクール 38名		12	安謝小学校 89名
7	10	中城小学校 110名		6	安和小学校 21名		12	北中城小学校 134名
	17	久高小中学校 11名		6	山田小学校 30名		17	西原東小学校 100名
10	1	上野小学校 49名		6	有銘小学校 19名		18	城北小学校 102名
	3	浦城小学校 160名		6	北玉小学校 95名		19	与儀小学校 120名
	4	白保小学校 22名		6	湧川小学校 16名		19	松島小学校 142名
	6	渡名喜小学校 26名		7	辺土名小学校 43名		19	ガナエメンタースクール 38名
	8	塩屋小学校 11名		7	源河小学校 12名		20	壺屋小学校 38名
	9	兼次小学校 39名		10	渡嘉敷小学校 28名		20	神森小学校 86名
	9	真壁小学校 55名		11	美東小学校 143名		20	城北小学校 128名
	13	八島小学校 70名		11	美崎小学校 33名		23	船浮小学校 3名
	14	翔南小学校 75名		11	伊江小学校 130名		23	小禄小学校 119名
	15	大里南小学校 135名		11	佐敷小学校 78名		23	沢嶠小学校 94名
	16	上本部小学校 49名		12	開南小学校 88名		24	天妃小学校 116名
	16	天底小学校 37名		12	久辺小学校 35名		24	仲井真小学校 127名
	20	与那国小学校 25名		12	喜如嘉小学校 19名		25	伊良波小学校 93名
	21	大本小学校 3名		13	山内小学校 128名		26	金城小学校 224名
	22	久部良小学校 9名		13	安富祖小学校 22名		26	屋部小学校 54名
	22	羽地小学校 98名		17	当山小学校 160名	3	2	小禄南小学校 108名
	22	大山小学校 182名		17	百名小学校 41名		3	琉球大学附属小学校 115名
	22	嘉芸小学校 29名		18	仲里小学校 37名		4	垣花小学校 45名
	22	長嶺小学校 98名		19	与那原小学校 105名		6	仲井真小学校 105名
	22	西小学校 46名		19	伊豆見小学校 12名		10	坂田小学校 67名
	22	具志頭小学校 100名		20	上原小学校 10名		10	泊小学校 155名
	23	屋我地小学校 26名		20	松田小学校 18名		11	坂田小学校 73名
	23	大宜見小学校 13名		26	平敷屋小学校 66名		16	城西小学校 156名
	23	宮森小学校 125名		27	喜瀬武原小学校 14名			
	23	天仁屋小学校 10名	12	9	伊平屋小学校 33名			
	23	今帰仁小学校 60名		11	漢那小学校 21名			

(中学校) 1,999名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	19	喜界第一中学校 70名	10	30	玉城中学校 184名	1	28	世羅中学校 103名
5	13	琉球大学附属中学校 20名	11	10	矢部中学校 135名	2	28	世羅西中学校 49名
	20	尾倉中学校 104名	12	九州学院中学校 38名	3	18	添田中学校 145名	
	21	郡山東中学校 170名	27	宮城中学校 35名	4	小川中学校 182名		
6	5	本町中学校 23名	12	15	西条中学校 191名	6	成城中学校 220名	
8	25	片瀬中学校 27名	17	大津北中学校 180名				
10	15	自由の森学園中学校 92名	1	12	切串中学校 31名			

(高等学校) 11,940名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	1	国立音大附属高等学校 75名	10	30	福島県立長沼高等学校 85名	12	9	茨城県立大子第一高等学校 151名
	14	神奈川工業高等学校 65名	30	東京農業大学第1高等学校 240名		10	木曾高等学校 199名	
	23	国際基督教大学高等学校 30名	30	高田工業高等学校 39名		10	静岡学園高等学校 122名	
5	12	川崎総合科学高等学校 74名	31	大妻嵐山高等学校 236名		12	精華高等学校 135名	
6	2	具志川商業高等学校 109名	31	東京農業大学第1高等学校 204名		15	京都明徳高等学校 119名	
	11	石川県立大聖寺高等学校 152名	11	常北高等学校 89名		16	国府高等学校 290名	
	11	国立音大附属高等学校 132名	5	新羽高等学校 70名		16	首里高等学校 39名	
	12	加世田常潤高等学校 143名	6	日本橋高等学校 133名		18	首里高等学校 38名	
	19	船引高等学校 279名	7	豊岡南高等学校 130名		19	首里高等学校 37名	
	27	九州産業高等学校 141名	8	茨城県立大子第二高等学校 61名		19	国府高等学校 169名	
	28	九州産業高等学校 579名	8	埼玉県立浦和西高等学校 167名	1	16	首里東高等学校 720名	
9	11	喜多方工業高等学校 214名	10	東京都立小川高等学校 255名		22	南部農林高等学校 180名	
10	3	福井県立道弓高等学校 20名	11	神奈川県立都岡高等学校 210名		26	大阪府立摂津高等学校 319名	
	4	橘女子高等学校 52名	13	糸満高等学校 29名	2	2	茨城県立江戸崎高等学校 102名	
	7	埼玉県立三郷高等学校 258名	17	北豊島工業高等学校 26名		10	千葉県立布佐高等学校 220名	
	9	陽明高等学校 27名	17	府中高等学校 265名		20	関東学園大附属高等学校 337名	
	14	埼玉県立朝霞西高等学校 396名	26	中津高等学校 20名	3	2	郡山北工業高等学校 21名	
	15	聖学院高等学校 32名	26	福生高等学校 275名		3	保善高等学校 156名	
	21	ノートルダム清心高等学校 192名	26	塩尻高等学校 106名		4	保善高等学校 155名	
	21	糸魚川白嶺高等学校 27名	26	遠野高等学校 70名		6	立川女子高等学校 147名	
	24	埼玉県立草加東高等学校 302名	27	広島県立加計高等学校 85名		6	安積女子高等学校 54名	
	25	会津第二高等学校 20名	12	藤枝西高等学校 166名		7	立川女子高等学校 147名	
	27	和歌山西高等学校 240名	2	上田染谷丘高等学校 41名		12	三河高等学校 161名	
	27	東京都立永福高等学校 209名	3	茨城県立里美高等学校 59名		13	三河高等学校 381名	
	27	横浜市立港商業高等学校 210名	3	藤枝西高等学校 67名		31	山陽女子高等学校 36名	
	29	高田工業高等学校 35名	9	独協埼玉高等学校 364名				

(大学・専門学校学校) 751名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	28	東北芸術工科大学 22名	9	3	京都精華大学 24名	10	13	勤協看護学校 33名
5	6	琉球大学教育学部 22名	10	琉球大学理学部 16名	11	19	京都市立芸術大学 26名	
	26	名古屋デザイン専門学校 113名	10	玉川大学 35名	12	17	名桜大学 18名	
	28	琉球大学法文学部 33名	16	園田女子短期大学 48名	19	大正大学 44名		
6	13	ベンシルベニア大学学院建築学科 25名	18	追手門学院大学 53名	3	3	鳥取県立農業大学校 28名	
7	16	神戸デザイナー学院 62名	18	沖縄県立芸術大学 30名				
8	7	名桜大学 22名	26	芸術短期大学 97名				

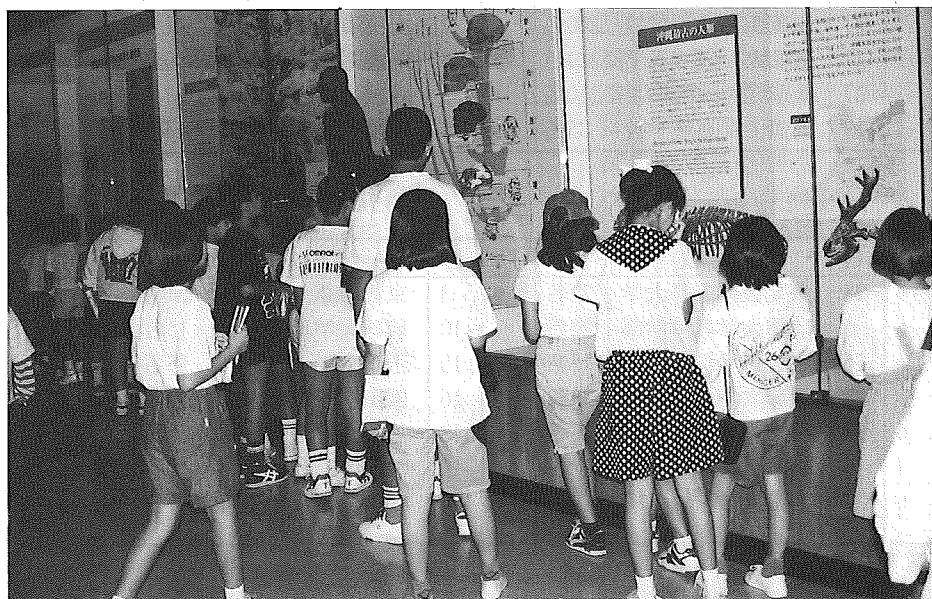
(特殊学校・その他)

901名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	1	山陽新聞少年少女の翼 47名	8	4	沢嶺げんき学童クラブ 42名	10	26	高良学童クラブ 37名
5	14	東京都立清瀬養護学校 31名		4	とよみ学童ともだちクラブ 28名	18		真栄原カトリック幼稚園 38名
	22	森川養護学校 11名	5		長田保育園 55名	22		真栄原カトリック幼稚園 78名
6	9	こざくら保育園 15名	9	1	佐敷小学校・波多江小学校交流団 27名	11	15	辺野喜子供会 20名
7	24	浜川幼稚園教育園 14名	13		杉の子幼稚園 45名	12	28	教養進学塾 54名
	25	志道館学童保育部 35名	13		こざくら学童 10名	1	3	沖縄女子短期大学附属親園幼稚園 16名
	28	しんざと学童クラブ 24名	18		城南児童クラブ 20名	14		安謝保育所 17名
	28	津嘉山学童 26名	18		海星学園学童 15名	20		とよむ保育園 8名
	28	さつき幼稚園 24名	18		城南児童クラブ 11名	2	9	あおぞら保育園 12名
	30	城下保育園 9名	18		海星学園学童 22名	3	30	北丘学童ハウス 22名
	31	与儀児童クラブ 50名	20		青空学童クラブ 11名	31		松川児童クラブ 27名



観覧前にオリエンテーションを受ける小学生



歴史展示室を熱心に見る小学生

III 調査研究等の活動

1 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料収集、資料の整理保管、資料の展示、教育普及活動という5つの大きな柱によって構成されている。これらの各機能は互いに相関性をもって存在するものである。

当館における従来の調査研究には、統一テーマを設定して全学芸員が一地域を定めて調査研究に取り組む共同研究と、学芸員各自が専門分野について調査研究を目的とする個別研究がある。

共同研究は、各離島における総合調査を実施しており、自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築の各専門分野にわたっている。これまでに久米島総合調査（平成5年度・6年度に実施）を皮切りに、波照間島総合調査（平成8年度・9年度）と実施し報告書を刊行している。本年度からは西表島総合調査を3ヶ年計画で（平成10年度・11年度・12年度）実施している。

個別研究については、各学芸員が専門分野別に研究を進めているもので、平成10年度も多様な研究が行われた。調査研究成果については、平成10年度に刊行した『沖縄県立博物館紀要』第25号に研究論文・調査報告という形で掲載している。

また、『紀要』への掲載の他に専門的な学会誌や研究機関誌への発表も行っている。

本章では以下のとおり、各学芸員が平成10年度に行った調査・研究活動の状況を報告する。

西表島総合調査（担当：与那城 義 春）

調査研究の概要

1. 博物館総合調査事業の趣旨

本県は多くの島々から成り立ち、それぞれの島に豊かな自然と歴史があり、島毎に特徴のある文化・社会が見られます。

これまでの県内離島調査は主に野生生物相の調査、遺跡の分布調査、民俗・集落及び独自の伝統行事等について報告されている。しかし、島々の自然・文化・社会に関する基礎的なデータは必ずしも十分であるとはいえないような状況である。

近年、県内でも特に沖縄本島の各種開発は活発化しているため、その影響は地形及び環境等も激変の様相を呈しているようである。更に地域住民の生活や伝統行事の形態など文化的側面までも改変されてしまいそうな状況である。

同様な地域開発が県内の各離島で実施されるならば、島々の自然・文化・社会等に関する貴重な資料も含めて殆ど消失するものと思われる。

本事業は各離島の自然・文化・社会等について各方面から調査・研究することによってその成果をまとめて報告し、更に当館の展示等に活用して島々の実態を多くの県民に正しく理解させるとともに保護保存の促進および各地域の発展を目指している。また、各離島の自然・文化・社会等に関する理解を深めつつ、島々における独自性の維持・継承の促進を目的としている。

調査期間は各離島ごとに通常2年間で終了しているが、西表島の面積は沖縄本島に次いで広大なために3年間継続して調査することになっている。今回の西表島総合調査は当館の館長をはじめ、学芸員等を含めて総勢15人前後の体制で実施する。

2. 西表島総合調査の選定理由

西表島は八重山郡竹富町に所属し、石垣島のほぼ西側位置している。島の面積は本県内の沖縄本島に次いで二番目に広大であり、島の大部分（約90%）は常緑広葉樹林によって占められている。

これまでの西表島調査は自然(野生生物相、地質・地形等)、文化・社会等に関して実施、報告されている。

しかし、西表島の面積は広大であるため、各分野の基礎的なデータはまだ十分でないようと思われる。目下、県内各地で活発化している各種開発は楽観できない状況であり、総合調査の必要性と緊急性を痛感させられている。従って、西表島総合調査は島内各地に現存する貴重な資料収集を主目的に選定された。

3. 総合調査組織

本調査組織は沖縄県立博物館の館長（民俗）および学芸員（自然、考古、歴史、民族、美術工芸の各担当者）等によって構成される。

4. 調査方法

本調査は自然、考古、歴史、民俗、美術工芸の5分野であり、当然のことだが、各分野の調査地域や対象等は異なっている。従って、現地調査は各分野別に具体的な調査方法等を各担当者で事前に検討し、各々のスケジュール等を調整した上で実施する。なお、調査協力依頼書は現地の教育委員会や文化協会等に博物館の事務局（担当：与那城）で必要に応じて事前に発送する。

現地調査の前に各分野別の調査検討会を持ち、調査終了後はその報告会を設定する。また、初年度末には各分野合同の中間報告会を実施する。

5. 調査員

1998（平成10）年度、博物館職員の調査員は以下の通りである。

【自然】

調査員 神谷 厚昭（県立博物館指導主事）
嵩原 建二（〃）
与那城 義春（〃）

【考古】

調査員 大城 慧（県立博物館学芸課長）
宮平 真由美（博物館学芸員臨任）

【歴史】

調査員 前田 真之（県立博物館教育普及課長）
萩尾 俊章（県立博物館学芸員）

【民俗】

調査員 當間 一郎（県立博物館館長）
太田 健一（県立博物館指導主事）
仲底 善章（〃）

【美術工芸】

調査員 與那嶺 一子（県立博物館主任学芸員）
伊波 悅子（県立博物館指導主事）
津波古 聰（〃）
瑞慶山 昇（〃）

6. 調査の成果

(1) 調査の成果は2000（平成12）年度末に報告書を刊行する。

(2) 2001（平成13）年度には西表島総合調査の成果に基づいた特別展を開催する予定である。

*西表島総合調査（1年目）

初年度（1998年4月～1999年3月）のスケジュール

年 度	月	活 動 内 容
1998年 (平成10年)	4	
	5	第1回調査検討会
	6	第1次調査
	7	
	8	第2回調査検討会
	9	
	10	
	11	
	12	
	1	第2次調査
	2	第3回調査検討会
	3	第3次調査
1999年 (平成11年)		

*西表島総合調査（2年目）

2年目（1999年4月～2000年3月）のスケジュール

年 度	月	活 動 内 容
1999年 (平成11年)	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
	1	第4回調査検討会
	2	第4次調査
	3	第5回調査検討会
2000年 (平成12年)		

*西表島総合調査（3年目）

3年目（2000年4月～2001年3月）のスケジュール

年 度	月	活 動 内 容
2000年 (平成12年)	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
	1	第7回調査検討会
	2	第7次調査
	3	第8回調査検討会
2001年 (平成13年)		調査状況報告会
		追加・補足調査
		原稿執筆要項検討会
		原稿作成開始
		※原稿提出（1月6～7日・厳守）
		西表島総合調査報告書完成

2 調査研究

大 城 慧（学芸課長）

○西表島総合調査（遺跡分布調査）

期 日：98年9月8日～9月10日
99年3月2日～3月4日

○港川フィッシャー遺跡の調査

期 日：98年9月1日
依頼機関：具志頭村教育委員会
○国指定史跡具志川城跡の調査
期 日：99年3月1,9日
依頼機関：糸満市教育委員会

与那城 義 春（充指導主事）

○環境庁委託・生物多様性地域（ヤンバル）
調査
期 間：98年4月1日～99年3月31日
依頼機関：財自然環境研究センター
○沖縄総合事務局北部ダム事務所「ノグチゲラ専門部会」委員
期 間：98年8月5日～99年3月31日
依頼機関：沖縄建設弘済会
○沖縄県自然保護委託調査「沖縄県版レッドデータブック区分未決定種等調査・検討会」
委員
期 間：99年1月20日～3月31日
依頼機関：株環境アセスメントセンター

神 谷 厚 昭（指導主事）

○平成10年度沖縄県地質鉱物緊急実態調査（宮古・八重山地区）
期 間：98年5月8日～99年3月31日
第1回調査：98年5月27～28日（伊江島補足調査）
第2回調査：98年8月19日～21日（石垣島）
第3回調査：99年2月22日～24日（宮古島）
第4回調査：99年3月5日～7日（西表島）
第5回調査：99年3月23日～25日（石垣島・波照間島）
依頼機関：沖縄県教育委員会
○岩石・化石資料調査
期 日：98年5月27日～28日
○西表島総合調査
期間：98年9月9日～11日
11月24日～26日
○南風原町史自然編普及版編集
期 間：98年4月1日～99年3月31日

依頼機関：南風原町

○屋我地の自然調査

期 間：99年2月1日～3月31日
依頼機関：名護博物館

嵩 原 建 二（充指導主事）

○名護市動植物総合調査
期 間：98年4月1日～99年3月31日
依頼機関：名護市教育委員会
調査地：名護市一円
○名護市文化財保護調査（調査委員）
期 間：98年4月1日～99年3月31日
依頼機関：名護市教育委員会
調査地：名護市一円
○沖縄島北部地域の生物多様性地域調査（環境庁委託調査）
期 間：98年4月1日～99年3月31日
依頼機関：財自然環境研究センター
場 所：沖縄島北部
○亜熱帯林における希少野生生物とその生息
環境維持機構に関する研究調査（環境庁委
託）
期 間：98年9月2日～99年3月31日
依頼機関：財自然環境研究センター
場 所：沖縄島北部
○自然環境の保全に関する指針策定業務ワー
キンググループ専門委員（県自然保護課委
託）
期 間：98年10月1日～99年3月31日
依頼機関：財沖縄県公衆衛生協会
場 所：八重山諸島
○ノグチゲラ保護増殖調査研究ワーキンググル
ープ委員
期 間：98年4月1日～99年3月31日
依頼機関：環境庁沖縄地区国立公園管理事
務所
場 所：沖縄島北部
○ノグチゲラ専門部会委員
期 間：98年8月5日～99年3月31日
依頼機関：財沖縄建設弘済会（北部ダム事
務所委託）
○カンムリワシ個体数調査検討会委員
期 間：97年12月1日～98年9月30日
依頼機関：（財）日本野鳥の会八重山支部
場 所：石垣島・西表島
○ミクロネシア連邦ボナペ島植物調査
期 間：98年11月4日～11月11日

依頼機関：財海洋博覧会記念公園管理財団
熱帶・亜熱帶都市緑化植物園
場 所：ミクロネシア連邦ボナペ島

津波古 聰（充指導主事）
○旧円覚寺美術工芸関係資料調査
第1回調査：98年9月24日（東風平町）
第2回調査：98年12月14日～16日（高松市・長崎市）
第3回調査：99年3月4日～6日（京都他）
依頼機関：沖縄県教育委員会

與那嶺 一子（主任学芸員）

○西表島総合調査
期間：98年8月18日～20日
場所：西表島
○無形文化財（工芸技術）「花織」の調査
期 間：99年1月14日～2月8日
依頼機関：文化庁文化財保護部伝統文化課
場 所：読谷村・石川市・南風原町
○文化財を支える用具・原材料の確保に関する調査現地調査
期 間：99年1月27日～3月10日
依頼機関：文化庁文化財保護部伝統文化課
場 所：南風原町・鹿児島市・石垣市・平良市

萩尾俊章（学芸員）

○西表島総合調査
期 日：98年9月9日～11日
○在外沖縄関連文化財調査
期 日：98年11月16日～29日
調査地：オーストリア、ドイツ、スイス
依頼機関：沖縄県教育委員会
○旧円覚寺美術工芸関係資料調査
期 日：99年2月10日
内 容：尚家位牌調査
依頼機関：沖縄県教育委員会
○特別展「三線のひろがりと可能性展」調査
第1回：99年2月16日～19日
奄美（笠利町、名瀬市、瀬戸内町）
第2回：99年3月4日～6日
鹿児島市、知覧町、山川町

太田健一（充指導主事）

○西表島総合調査
期間：98年9月9日～11日

○東京国立博物館保管琉球関係資料調査
期 間：98年12月7日～9日
依頼機関：東京国立博物館
○特別展「三線のひろがりと可能性展」調査
第1回：99年2月16日～19日
奄美（笠利町、名瀬市、瀬戸内町）
第2回：99年3月3日～6日
熊本市、鹿児島市、知覧町、山川町

前田真之（教育普及課長）

○西表島総合調査
第1回：98年9月9日～11日
第2回：99年3月1日～3日
内 容：歴史に関する聞き取り調査

仲底善章（指導主事）

○西表島総合調査
第1回：98年11月24日～26日
第2回：99年3月3日～4日
内 容：魚垣に関する聞き取り調査

伊波悦子（充指導主事）

○西表島総合調査
期 間：98年9月9日～11日
○中国印花布調査（中国の藍染め）
期 間：98年8月6日～11日
調査地：中国雲南省
○特別展「包むこころふろしき展」調査
期 間：98年8月13日～14日
調査地：神奈川・東京
○中国印花布調査
期 間：98年11月1日～7日
調査地：中国湖南省
内 容：中国の型染めと紅型の関わり
○ボランティア活動調査
期 間：99年3月5日～7日
調査地：大阪・滋賀・京都

3 講演等

大城慧（学芸課長）

○「沖縄の鉄器とその特質」
期 日：98年6月12日
依頼機関：沖縄電力株式会社
○「首里城復元整備とその保存・活用」
期 日：98年9月20日
依頼機関：別府大学

- 「旧石器時代の沖縄」
期日：98年10月21日
依頼機関：沖縄県立向陽高等学校
- 「発掘調査が語るグスク時代」
期　　日：98年10月28日
　　　　98年11月11日
依頼機関：那覇市小禄南公民館
- 「琉球の歴史とロマン」
期　　日：98年11月4日
依頼機関：宜野湾市教育委員会

与那城 義 春（充指導主事）

- 平成10年度沖縄県長寿学園専門課程講座「沖縄の動物」講師
期　　日：98年5月26日、6月2日、6月
　　　　16日、10月6日
依頼機関：沖縄県教育委員会
- 平成10年度愛鳥週間の「野鳥講演会」講師
期　　日：98年5月14日
依頼機関：沖縄県文化環境部自然保護課
- 環境教育「野鳥観察の講演会」講師
期　　日：98年7月1日
依頼機関：那覇市立上間小学校
- 沖縄県立博物館友の会「離島(粟国島)研修旅行」
期　　間：98年7月11日～12日
依頼機関：沖縄県立博物館友の会
- 平成10年度浦添市てだこ学園大学院講座「沖縄の野鳥」講師
期　　日：98年9月11日
依頼機関：浦添市てだこ学園大学院
- 第39回沖縄県児童・生徒科学作品展審査員
期　　日：98年10月9日
依頼機関：沖縄県理科教育協会
- 家庭教育学級・親子野鳥観察会講師
期　　日：98年11月29日
依頼機関：西原町教育委員会
- 第21回沖縄県青少年科学作品展審査員
期　　日：99年1月20日
依頼機関：沖縄県教育委員会
- 親子バードウォッキング講師
期　　日：99年2月13日
依頼機関：那覇市立上間小学校

神 谷 厚 昭（指導主事）

- 親子・新川鼻探検
期　　日：98年6月13日

- 依頼機関：与那国町教育委員会
- ボランティア養成講座「沖縄の岩石と化石」
期日：98年7月22日
- 文化財めぐり案内人養成講座「沖縄の地質－名護山原を中心にして－」
期　　日：99年2月28日
依頼機関：名護市教育委員会

嵩 原 建 二（充指導主事）

- 野鳥講演会・探鳥会講師
期　　日：98年7月4日
依頼機関：沖縄盲学校
場　　所：南風原町
- 山の観察会講師
期　　日：98年7月26日
依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課
場　　所：名護市名護青年の家・名護岳
- 平成10年度探鳥会講師
期　　日：98年7月29日～30日
依頼機関：北谷町中央公民館
場　　所：北谷町・国頭村
- 子ども体験教室自然観察会講師
期　　日：98年8月8日
依頼機関：宜野座博物館
場　　所：宜野庄村
- 環境教育野鳥観察会講師
期　　日：98年9月24日
依頼機関：沖縄県自然保護課・具志川村立
　　大岳小学校
場　　所：具志川村・仲里村
- 野鳥観察会講師
期　　日：98年9月12日～14日
依頼機関：南大東村教育委員会
場　　所：南大東島
- 野鳥観察会講師
期　　日：98年9月26日
依頼機関：仲里村教育委員会
場　　所：具志川村・仲里村
- 探鳥会講師
期　　日：98年10月3日～4日
依頼機関：粟国村教育委員会
場　　所：粟国島
- 発見いっぱい野鳥教室講師
期　　日：98年10月24日
依頼機関：知念村教育委員会
場　　所：知念村・佐敷町・那覇市漫湖公
　　園

- 環境教育モデル校実績発表会指導助言
 期　　日：98年11月27日
 依頼機関：沖縄県自然保護課
 場　　所：県庁
- 平成10年度少年教室探鳥会講師
 期　　日：98年11月29日
 依頼機関：糸満市立中央公民館
 場　　所：糸満市・豊見城村
- 第20回沖縄県青少年科学作品展審査員
 期　　日：99年1月20日
 依頼機関：沖縄県教育委員会（高等学校教育課）
 場　　所：沖縄電力
- 平成10年度探鳥会講師
 期　　日：99年2月
 依頼機関：金武町並里区事務所
 場　　所：金武町億首川
- 自然文化センター久米島館新館展示に関する展示指導
 期　　日：99年3月23日
 依頼機関：久米島総合施設組合
 場　　所：仲里村
- 萩尾俊章（学芸員）**
- 講演「沖縄の歴史と文化」
 期　　日：98年4月6日～7日
 依頼機関：沖縄県自治研修所
 備　　考：県新採用職員研修
- 博物館ボランティア歴史展示解説会
 期　　日：98年4月10日
- 講演「沖縄の歴史と文化」
 期　　日：98年4月23日
 依頼機関：沖縄県自治研修所
 備　　考：市町村新採用職員研修
- 講演「沖縄の歴史と文化」
 期　　日：98年7月16日
 依頼機関：沖縄県自治研修所
 備　　考：市町村新採用職員研修
- 博物館ボランティア養成講座
 「琉球王国の歴史」
 期日：98年8月19日
- 講演「沖縄の歴史と文化～韓国との歴史的交流を中心に～」
 期　　日：98年10月26日
 依頼機関：沖縄県自治研修所
 備　　考：済洲島研修生
- 講演「沖縄の歴史と文化」
 期　　日：98年10月29日
 依頼機関：沖縄県自治研修所
 備　　考：市町村新採用職員研修
- 講演「大交易時代の琉球」
 期　　日：98年12月16日
- 長寿学園講座
 「沖縄の行事(1)～(4)」
 期　　日：99年1月19日、1月26日、2月1日、2月9日
- 名護博物館講座「泡盛の歴史と文化」
 期　　日：1999年3月1日
 依頼機関：名護博物館
- 太田健一（充指導主事）**
- 講演「ハワイ・ビショップ博物館の活動」
 期　　日：98年4月18日
 備　　考：博物館文化講座（第280回）
- 講演「民俗展示室解説会」
 期　　日：98年4月24日
 備　　考：沖縄県立博物館教育ボランティア対象
- 講演「民俗展示室解説会」
 期　　日：99年2月27日
 依頼機関：沖縄県立博物館友の会
- 前田真之（教育普及課長）**
- 「癩予防法と龜：地域の歴史から学ぶ行政の視点」
 期　　日：98年4月23日
 依頼機関：沖縄県自治研修所
- 「博物館におけるボランティアの役割」
 期　　日：98年7月8日
- 仲底善章（指導主事）**
- 「博物館ってどんなところ？」
 期　　日：98年8月26日
 備　　考：博物館ボランティア養成講座
- 「学校と連携して行う教育活動～沖縄県立博物館の実践から～」
 期　　間：99年2月17日～19日
 依頼機関：日本博物館協会
- 「黒砂糖づくり」出前教室
 期　　間：98年11月17日～18日
 依頼機関：那覇市立垣花小学校
- 「シーサーづくり」出前教室
 期　　間：98年12月3日～12月4日
 依頼機関：那覇市立曙小学校
- 「シーサーづくり」出前教室
 期　　間：99年2月9日～2月10日
 依頼機関：沖縄市立美東小学校
- 「シーサーづくり」出前教室
 期　　日：99年2月21日
 依頼機関：浦添市立牧港小学校
- 伊波悦子（充指導主事）**
- 「沖縄の染織」
 期日：98年7月15日
 備考：博物館ボランティア養成講座

4 著作論文等

當間一郎（館長）

- 『沖縄コンパクト事典』琉球新報編 項目176 執筆1998年9月
- 組踊「忠臣反間の巻」の上演 沖縄藝能史研究会会報 第250号 1998年9月
- 組踊「忠臣反間の巻」を見る 沖縄藝能史研究会会報 第252号 1998年11月
- 組踊「銘苅子」と能「羽衣」の上演 沖縄藝能史研究会会報 第255号 1999年2月
- 「銘苅子」の世界 能と組踊鑑賞のタベ 1999年2月
- 沖縄芸能の道—21世紀への継承— 組踊1~10 1999年1月7日~3月25日
- 『組踊写本の研究』（著書） 1999年3月 第一書房

与那城義春（充指導主事）

- 「セッカの繁殖」『沖縄県立博物館紀要』第25号 1999年3月31日

神谷厚昭（指導主事）

- 「石材と人間の民俗的・歴史的関わり」『沖縄県立博物館紀要第25号』1999年3月
- 「沖縄県池間島に分布する池間古砂丘について」（共著）『平良市総合博物館紀要』

嵩原建二（充指導主事）

- 「沖縄島北部にすむ哺乳類と鳥類」 第5回企画展図録「琉球の生きもの」群馬県立自然史博物館 1998年7月18日
- ポケットブック「沖縄島北部の貴重動物」（共著）沖縄総合事務局・北部ダム事務所 1998年3月
- 「琉球王国時代の植物標本」（共著）企画展「琉球王国時代の植物標本展」開催実行委員会 1998年7月10日。
- 「久米島から最近記録された鳥類」（共著）沖縄県立博物館紀要第25号 沖縄県立博物館99年3月31日
- 「南大東島から最近記録された鳥類について」（共著）沖縄県立博物館紀要第25号沖縄県立博物館 1999年3月31日
(学会発表)
- 演題「ヤンバルクイナ *Rallus okinawae* の分子系統学的解析」（共同研究）日本遺伝学会第70回大会 1998年9月23日~25日

與那嶺一子（主任学芸員）

- 「紅型における同一模様と紺屋との関わりについて」『沖縄県立博物館紀要第25号』沖縄県立博物館 1999年3月31日

萩尾俊章（学芸員）

- 「沖縄の歴史と文化」『沖縄の美術工芸』大分県立芸術会館 1998年6月
- 「上江洲家文書にみる願文等史料と祭祀」『久米島における東アジア諸文化の媒介事象に関する研究』京都大学人文科学研究所 1999年3月
- 「久米島紬の歴史（近代以降）」『久米島紬のあゆみとわざ』仲里村教育委員会 1999年3月
- 「沖縄の銘酒・泡盛」他『概説 沖縄の歴史と文化』沖縄県教育委員会 1999年度刊行

太田健一（充指導主事）

- 共著「資料紹介・高倉について」『沖縄県立博物館紀要』第25号 1999年3月31日
- 「博物館資料の収集・整理と保存の方法について」『国内・国外派遣研究員研究報告書』第8号 財団法人沖縄県人材育成財団 1999年3月

前田真之（教育普及課長）

- 「『博物館教育』の授業方法論について」『日本ミュージアム・マネジメント学会会報』Vol. 3 No. 4
- 「ドイツにおける宗教活動とイスラム」『沖縄県立博物館紀要』第25号 1999年3月31日

仲底善章（指導主事）

- 「ンムクジづくりと芋料理」『沖縄県立博物館紀要第25号』 1999年3月31日
- 「どうして土器は平底の深鉢型なのか」『沖縄県立博物館紀要第25号』 1999年3月31日

伊波悦子（充指導主事）

- 「博物館はボランティアに支えられて」『沖縄県立博物館紀要』 第25号 1999年3月31日
- 「藍上布～中国雲南省にて」『蘊』教育文化資料センター 1999年1月26日
- 「ボランティアこの一年」『平成10年ボランティア活動』沖縄県立博物館 1999年3月31日
- 「博物館っておもしろいね」『平成10年ボランティア活動』沖縄県立博物館 1999年3月31日
- 「ビロウ茂る島～南大東島～」『佐敷町文化協会誌』佐敷町文化協会 1999年3月31日
- 「レモングラス」「樹木札」「大掃除」『平成10年ボランティア活動』沖縄県立博物館 1999年3月31日

5 職員研修

博物館の学芸員は、「博物館資料の収集、保管、展示、及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」（博物館法第4条4）こととなっていて、学問の専門性が要求されている。そのため各学芸員がこれらに必要な最先端の知識と技術を習得し、生涯学習時代における新しい博物館の展望を持つことが求められている。この目的を達成するために職員研修を受けている。

平成10年度は、文化庁文化財保護部美術工芸課が主催する「指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー」への参加や文部省・国立教育会館社会教育研修所が主催する学芸員資格取得のための「博物館職員講習」を受講した。受講期間は2年間。

(1) 平成10・11年度博物館職員講習 仲底善章

平成10・11年度に行われる博物館職員講習は、博物館等に勤務する職員を対象に学芸員の資格取得を目的として行われている。期間は2年にまたがり、平成10年度は6月22日(火)～7月16日(木)までの日程で行われた。研修の内容は以下の通りであった。

- 平成10年度博物館職員講習の研修内容
 - 6月22日(月)「開講式」／「生涯学習・社会教育の基礎」
 - 23日(火)「博物館の目的と機能」新井重三／「博物館の目的と機能」村上義彦
 - 24日(水)「博物館の歴史」椎名仙卓／「博物館の歴史」岩淵潤子
 - 25日(木)「博物館の現状」加藤有次／「博物館の現状」原眞麻子
 - 26日(金)「生涯学習と博物館」奥田茂雄／「博物館関係法規」佐々木亨
 - 29日(月)「生涯学習と博物館」石川昇／「博物館倫理」中川志郎
 - 30日(火)「博物館概論：テスト」／「ミュージアム・マネジメント」大堀 哲
 - 7月1日(水)「博物館の行財政制度」占部浩一郎／「博物館の職員及び施設・設備」高安礼士
 - 2日(木)「博物館における教育普及活動」染川香澄／
 - 3日(金)「博物館における情報の意義」高橋信裕／「博物館における情報提供と活用の方法」倉田恵津子
 - 6日(月)「博物館における情報提供と活用の方法」高橋信裕

- 7日(火) 「博物館における情報機器」若月憲夫／「博物館経営論・博物館情報論：テスト」
 8日(水) 「博物館の資料の収集」倉田公裕
 9日(木) 「博物館資料の展示」勝山輝男／「博物館資料の展示」平田大二
 10日(金) 「博物館資料の展示」前沢和之
 13日(月) 「資料の保存・整理保管の理念」青木豊／「資料の保存・整理保管の方法」青木豊
 14日(火) 「博物館資料に関する調査研究活動の意義と方法（資料に関する調査研究）
 矢島國雄／「博物館資料に関する調査研究活動の意義と方法（保管・展示・教育
 に関する研究）」矢島國雄
 15日(水) 「博物館資料論：テスト」／特別文化講座「アンサンブル・ステラ」
 16日(木) 「資格取得の手続きについて」／「閉講式」

○平成10年度博物館職員講習の結果

- (1) 博物館学に関する専門的な研修は初めてのことなので、講義の内容が新鮮で職務の遂行において大変役立つ研修内容であった。
- (2) それぞれ設立趣旨の異なる、多様な博物館を見学することができ、それぞれの博物館の展示における特徴や普及活動の実際を、各博物館の担当者から直接話を聞くことができ、今後の当館の活動に示唆を与える内容であった。
- (3) 標本や模型製作に関わる現場を視察することができ、その製作過程、製作上の悩み等を現場担当者の話を交え聞きでき有意義であった。
- (4) 海外における博物館活動の現状や方向性等についても学ぶことができた。

(2) 第1回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー 萩 尾 俊 章

○期間：平成10年11月9日～13日

○場所：京都国立博物館

○主催：文化庁（文化財保護部美術工芸課）

本セミナーは、「国民全体の文化遺産である指定文化財（美術工芸品）の公開活用を促進し、適切な施設における企画・展示を支援するため、文化財の公開に関わる様々な専門的知識と技能の研修を行い、もってその資質の向上を図ること」を目的に開催された。

前年度までは、「指定文化財（美術工芸品）展示取扱講習会」という名称で開催されていた研修会である。本年度から上記の名称で衣替えした。2ヵ年間の第1年度の研修である。セミナーは、東日本会場（東京国立博物館）と西日本会場（京都国立博物館）で開催され、各会場30名程度の受講者が予定されていた。東日本会場は7月13日～17日に開催された。

西日本会場では30名が参加した。セミナーの内容は以下のとおりであった。

第1日目「文化財保護の現状と課題」、「文化財の公開と文化財保護行政」、「文化財調査と資料収集」、「文化財情報システムの現状と課題」、「文化財情報ネットワークの利用と問題点」

第2日目「梱包の科学」、「文化財修理の理念」、「文化財の特質と取扱い（工芸品）」、「梱包実習（工芸品）」、「文化財修理の現状（工芸品）」

第3日目「文化財の特質と取扱い（絵画、書跡典籍、古文書、歴史資料、彫刻）」、「梱包実習（彫刻）」、「文化財修理の現状（彫刻）」

第4日目「梱包実習（絵画、書跡、歴史）」、「文化財修理の現状（絵画、書跡、歴史）」、「文化財の特質と取扱い（考古資料）」、「梱包実習（考古資料）」、「文化財修理の現状（考古資料）」

第5日目「写真撮影の技術とその活用」、「模写・模造の活用と実際」、「修理工房見学と修理解説」

プログラムをみてわかるように、第1年度は文化財保護の現状に重点をおきながらの説明と、文化財の取扱いや梱包実習など実務的な研修が大きな内容であった。研修生は博物館や美術館の学芸員（5年以内の職員をめやす）で、その点では大いに参考となる研修会といえる。私の場合は、8年目にして念願の研修であったが、京都国立博物館所蔵の実物資料（特に、絵画、刀剣、

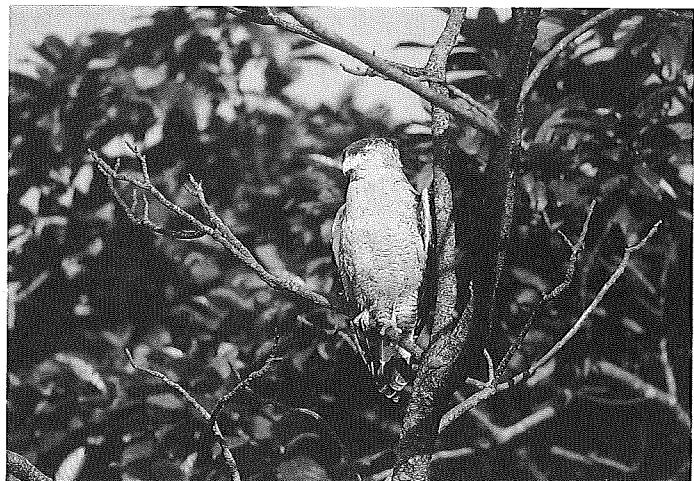
彫刻など)をもとにした文化財取扱いや修理の現状説明であったため、刺激あるプログラムであった。

もう一つの研修会の大きな成果は、文化庁や京都国立博物館の専門職員、県外の博物館・美術館関係者との意見交換や交流ができたことにある。その中で各関係者が抱える現状や課題について理解を深めることができ、相互に情報交換ができたことは今後の取り組みに示唆を与えてくれた。

次年度は、博物館活動の活性化にかかる講演とディスカッションが中心に組まれており、さらに各館の現状と課題について議論が交わされる予定である。



古見のサキシマスオウノキ群落
(国指定天然記念物)



カンムリワシ (国指定特別天然記念物)



後良川 (西表島)

IV 展示活動

1 展示活動の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料の収集、資料の整理保管、資料の展示、教育普及活動という5つの大きな柱によって構成されている。展示活動については、学芸業務の所掌事務として学芸課がその任にあたり、常設展を基本にして特別展を年に1回、企画展を1回から2回程度実施しているところである。

特別展と企画展の実施にあたっては、専用の特別展示室と企画展示室が確保されていないため展示会の規模に合わせて第1展示室の歴史展示室や第3展示室の美術工芸展示室や企画展示室を利用している。その度毎にそれぞれの展示物を撤収し展示スペースを確保している状況である。そのため「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマとした常設展が観覧できない等、来館者からの要望期待に応えられない状況となっている。特に本土からの修学旅行生が沖縄の歴史を学ぶために当館を訪れることが多いが、修学旅行期間中常設展が見られず苦情を受けることもある。今後、特別展示室や企画展示室を設置していくことが、急務の課題となっている。

平成10年度は、「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマとした常設展示を中心に、特別展として「包むこころ ふろしき展」、企画展として「新収蔵品展」、「琉球王国時代の植物標本展」を開催した。

以下、平成10年度の展示活動について具体的に述べる。

2 常 設 展

環太平洋の西側を縁取り、亜熱帯気候の中にある沖縄県は、東西南北の文化が交差する特色ある地域として我が国の中でも個性豊かな文化を造りあげてきた。その歴史は、琉球王国を誕生させ日本や中国を中心とするアジア諸国と盛んに交易を行って海洋国家として興隆したという歴史的経緯を有している。

本博物館はこうした特色のある歴史と文化に関する資料を収集して整理・保管しながら調査・研究を行い、その成果を展示する総合博物館である。よくいわれることだが、沖縄の素顔はいくつかの特徴をもっているとされている。常設展示のメインテーマは「沖縄の歴史と文化」であるが、この常設展示を一巡することで沖縄の素顔がよく理解できるように工夫されているのが展示内容の大きな特徴になっている。

展示室は、1階の第1室と第2室、2階の企画展示室と第3室、さらに中3階の第4室がある。第1室の考古・歴史の展示では、琉球列島の形成から日本復帰まで、沖縄の歴史と文化について、小テーマごとに短い時間でも理解できるよう展示してある。たとえば、港川人に代表される沖縄の初期人類、九州縄文文化の南下や独自の展開を見せる新石器時代の文化、そして沖縄諸島とは起源を異なる宮古・八重山先史時代の姿など。12世紀から13世紀になると按司と称する在地の小領主が出現しグスク時代が始まる。各グスクから出土した遺物が展示されている。ここまでが、考古資料の展示となっている。

次のコーナーでは、琉球王国が誕生する様相が紹介されている。15世紀前半には沖縄本島中部を拠点として琉球王国が誕生する。琉球は「大交易時代」の国際交流によって国家興隆期を迎えるが、17世紀の初頭には島津氏の侵攻をうけその支配下にはいり、やがて幕藩体制下に組み込まれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和を経て、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまでのユニークな沖縄歴史の様相が展開されている。

第2室の自然史の展示は、沖縄の島々が約2億年以上の時間をかけて出来上がったことを教えてくれるアンモナイトやハロビア、あるいは絶滅して今では見られないリュウキュウシカやリュウキュウムカシキヨンなどの化石から始まって、亜熱帯地域に広がる沖縄の自然についてテーマごとに展示してある。左側から順に見て回ると、海岸の生きもの、珊瑚礁の生きもの、河口の生きもの、マングローブの生きもの、湿地や沼の生きもの、山地森林に住む生きもの、源流の生きものと続く。また、沖縄のハブについても分類して展示してある。特に大自然の宝庫といわれる沖縄本島北部（ヤンバル）と西表島に生息する国・県指定の天然記念物については特設コーナーを設けて展示してある。

自然室を出ると2階に至るスロープがあり、スロープ右壁上部には那覇大綱挽時の首里代表旗「瑞雲」が展示されている。スロープの側壁には戦前から戦後にかけて撮影された貴重な沖縄の風景写真パネルが展示されており、写真を見ながら企画展示室に導かれる。

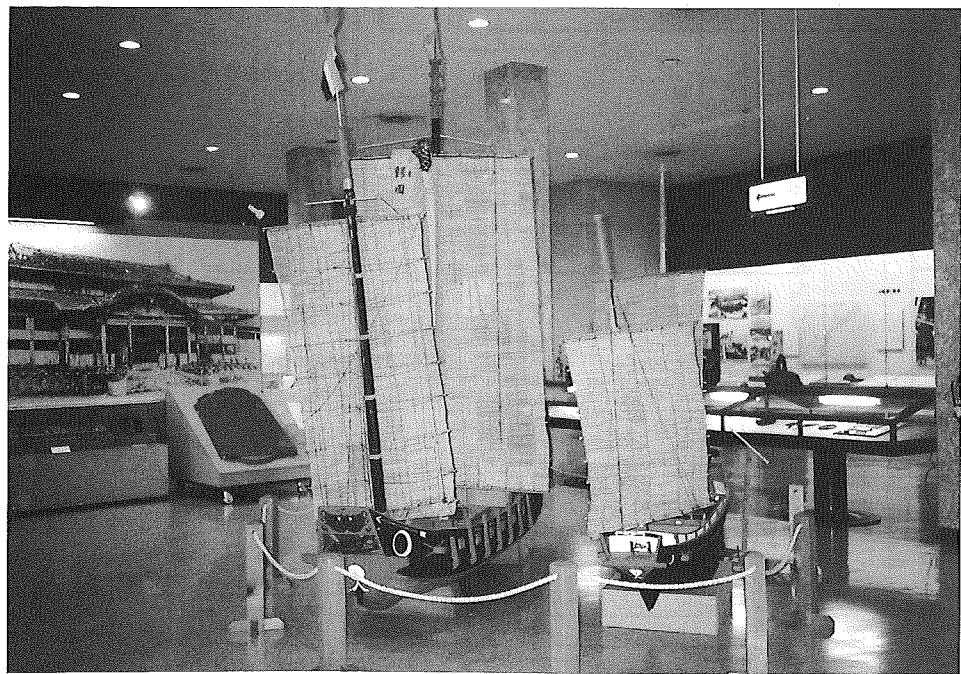
この展示室には「大嶺薰コレクション」が展示されているが、その一角を利用して沖縄の染織のルーツともいわれる「東南アジアの染織」も展示してある。毎年、企画展示として行う新収蔵品展に使われている。

第3室美術工芸の展示室には、日本や中国をはじめとする東南アジア諸国との交渉を背景にして生まれた書跡、染織、漆器などが展示されている。中国との関係をうかがわせる絵画や書跡、独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦等の高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋を中心として発展してきた琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外との文化交流で生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

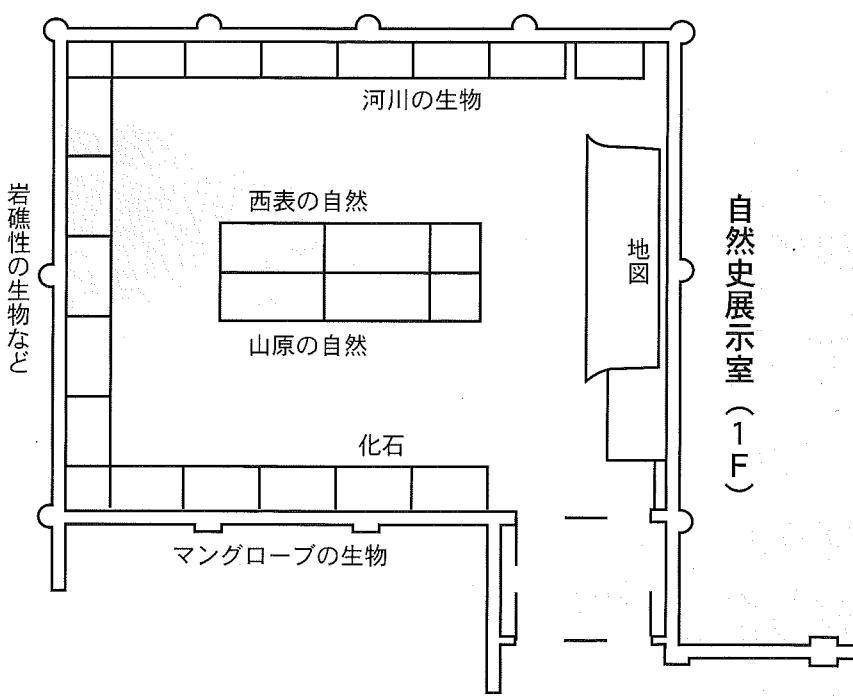
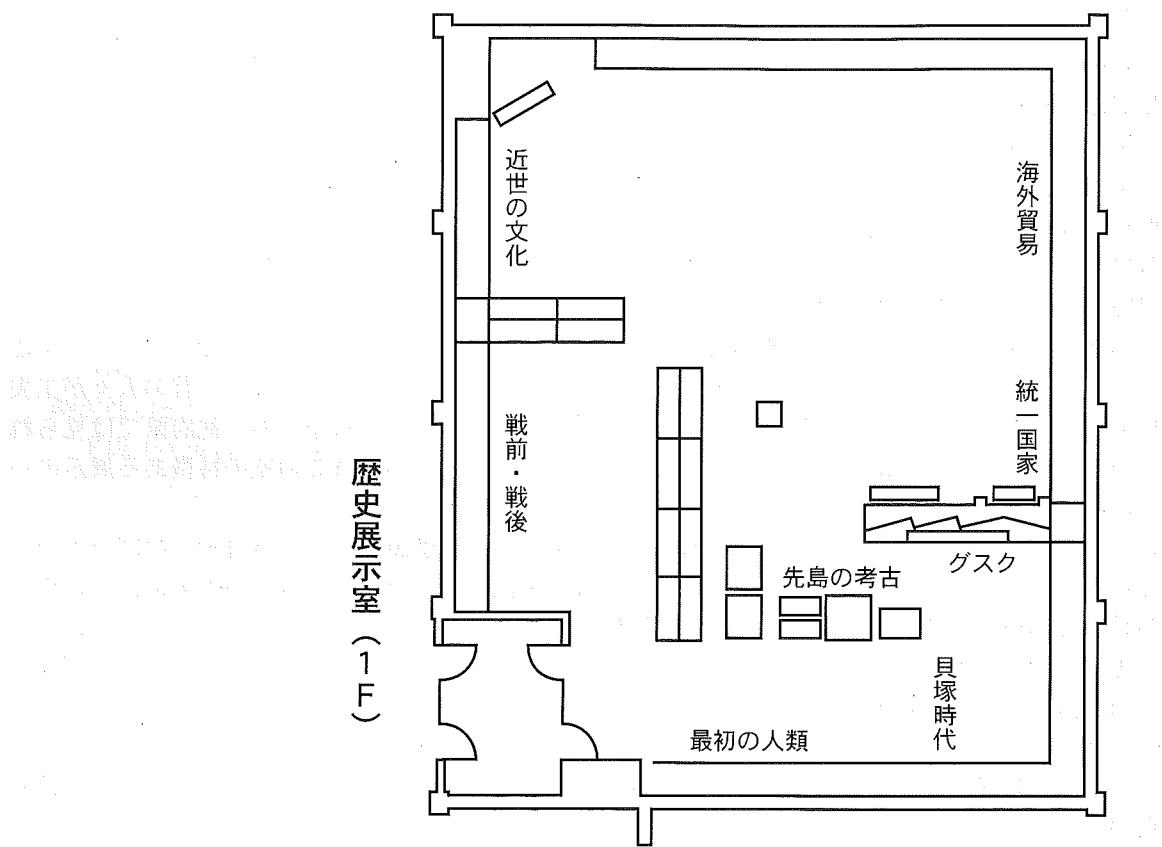
第4室の民俗展示室には、琉球列島の民俗資料を、農業・漁業・衣食住・芸能など、テーマごとに整理・分類して展示してある。また、庶民の生活用具である民具を通して、昔の人々が工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知る資料も展示してある。なかでも、他府県では見られない沖縄独特の生活習俗や信仰・墓制などが紹介展示されているのはこの室の特徴ある展示の一つになっている。

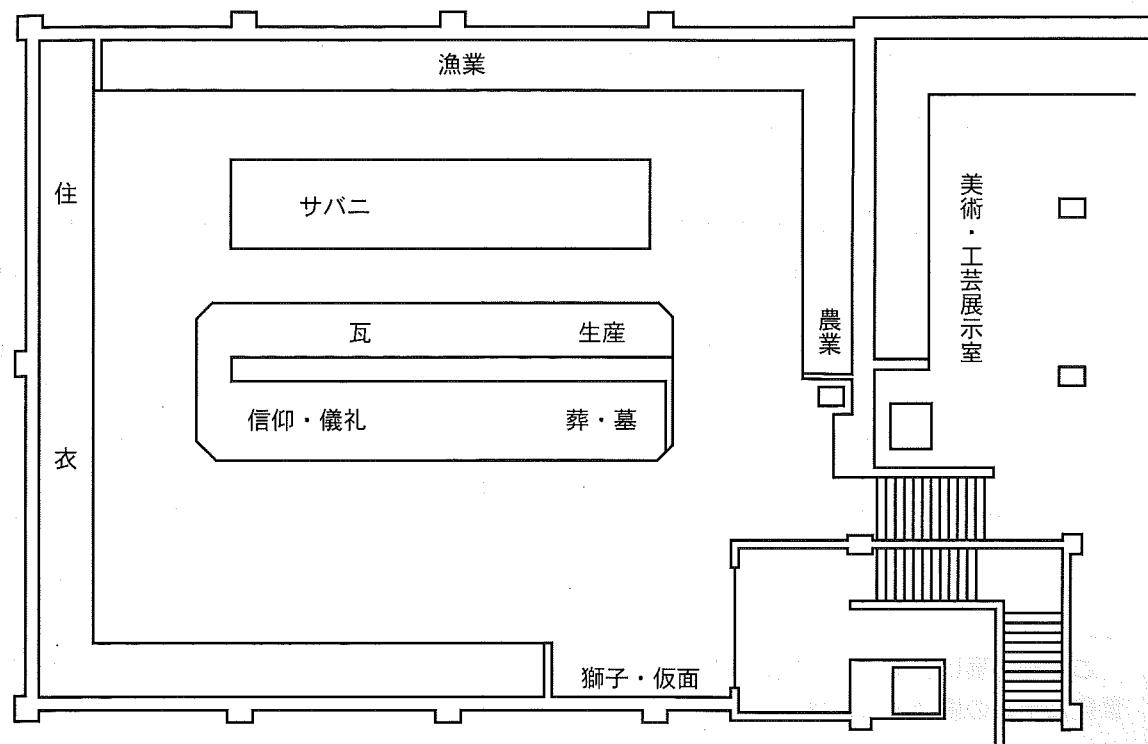
ところで、当博物館の敷地は、もともと琉球国王世子の屋敷跡であり中城御殿と呼ばれていたところである。相方積みという琉球石灰岩の独特的な工法で築かれた石牆は、前方の龍潭や首里城の眺めと調和して往時の古都をしのばせる歴史的景観を呈している。館のロビーに入ると、首里城正殿の模型を中心に、戦災でその一部しか残らなかった首里城正殿前の大龍柱の頭、万国津梁の鐘（旧首里城正殿鐘・重文）、「徳高」・「徳馨」などの扁額によって琉球王国のイメージを象徴的に展示してある。

また、野外展示の一環にもなっている前庭に目を転じてみると、旧円覚寺鐘楼（重文）や沖永良部から移築された高倉をはじめ、亜熱帯の樹木の下や芝生の中にひっそりと立っている石灯籠や石敢當とともに石獅子、壺屋の窯で焼かれた獅子頭などが展示されており、館を訪れる人々へ館の内外から沖縄の歴史・文化を紹介している。

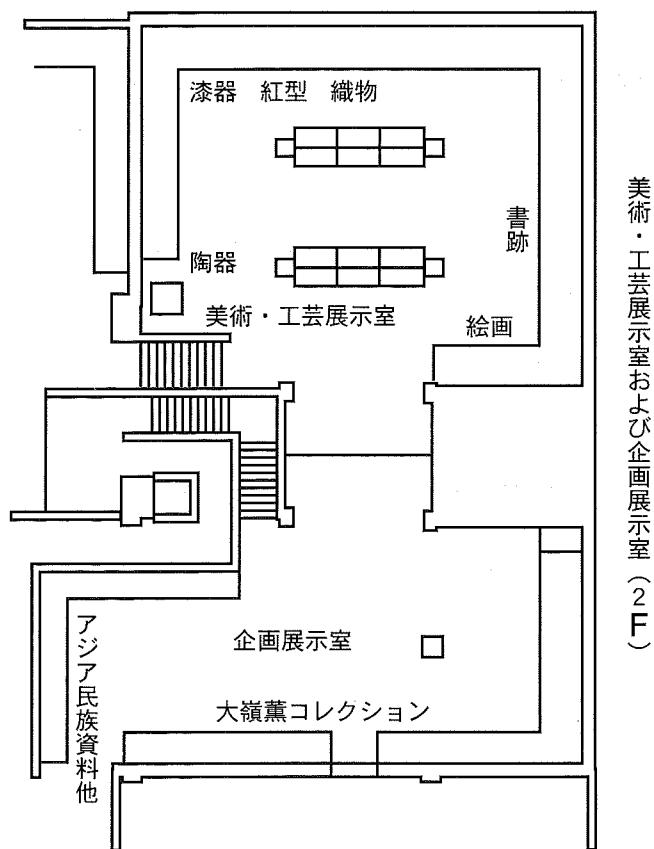


第1室・歴史展示室





民俗展示室（2F）



3 特別展

特別展「包むこころ ふろしき展」（担当：與那嶺、太田、伊波）

会期：平成10年11月17日(火)～平成10年12月20日(日)

会場：沖縄県立博物館（ロビー・企画展示室・第三展示室）

【趣旨】

我が国における包む文化の歴史は古いが、生活と密着したものであったため、実際に残されているものは少ない。奈良時代、正倉院宝物を包んだ方形の布帛が風呂敷の原型をなす最も古いものとして知られている。

鎌倉時代～戦国時代に「平包」という言葉が生まれ、江戸時代の初め、町人文化の開花、風俗の変化とともに、「風呂敷」という呼び方が登場し一般化し様々な生活の場面で使われてゆく。使い古された一枚の布には、単なる運搬用具としてではなく、作り手や持ち主の喜怒哀楽の心がつままれている。

近年、風呂敷を使う場面が顕著に少なくなりつつあるが、西洋化によって忘れかけていた日本文化の美しさを紹介する。

さらに、紅型風呂敷の染織技法や模様、使用方法等を展示し、琉球文化と日本文化の接点を探る。

この特別展は、東京、大阪、茨城、青森、神奈川、山梨を巡回する展示会で、次代を担う若い世代に学習の機会と共に夢を与えるものと思量される。

【開催形式】

主催：沖縄県立博物館・毎日新聞社

共催：琉球新報社

後援：文化庁・NHK沖縄放送局・琉球放送・沖縄テレビ放送・琉球朝日放送・ラジオ沖縄・

FM沖縄・沖縄ケーブルネットワーク・琉球びんがた事業協同組合・沖縄染織研究会

協力：三瓶清子・三瓶葉子・宮井株式会社・沖縄県立首里高等学校染織デザイン科

【展示内容】

江戸期から昭和初期までの風呂敷実物資料120点を時代別、用途別、文様別のテーマで紹介し、包み方の実例や製作方法を模型や写真パネルで示した。また、絵図資料や写真パネルで風呂敷使用の実例を展示了。

プロローグ

風呂敷とは何か、その語源と歴史、全国の風呂敷や風呂敷を用いた運搬方法などをパネルを用いて紹介しながら、展示室へ誘導した。

くらしの中の風呂敷

竹村昭彦氏が撮影した昭和40年代～50年代の風呂敷風俗を紹介しながら、つい最近まで風呂敷が身近なものであったことを示した。

沖縄の風呂敷

戦前の写真パネルに実物模型、筒描きの道具を展示しながら、沖縄の紅型の技法による風呂敷製作の様子を紹介し導入とした。

風呂敷を使った風俗画や戦前の写真を紹介しながら、沖縄の風呂敷の様々な使い方を示すと共に、麻地のウチクイ以外の風呂敷も紹介した。また、これまで紹介できなかった大型の風呂敷を模様を中心に展示了。

包み方あれこれ

様々な包み方の例を実物と図パネルで紹介した。ボランティアによる包み方の実演と指導も行われた。

様々な素材・様々な技法

異なる素材や技法のパターンで風呂敷を展示してみせた。

風呂敷の美～包むこころ～

三瓶コレクションを中心に時代別に見られる風呂敷や地域による風呂敷の違いを示しながら、その美しさを鑑賞してもらう。

【関連事業】

特別文化講座

- 1) 特別展展示解説会「包むこころ～ふろしき」

日時：平成10年11月17日(火) 午後2時～4時

講師：三瓶 清子（郡山倭文の会会長）

* 風呂敷のコレクターでもあり研究家でもある三瓶氏が展示資料の解説及び風呂敷の包み方の実演を行った。

- 2) 特別文化講座「ふろしきの文化」

日時：平成10年12月5日(土) 午後2時～4時

講師：竹村昭彦（宮井株式会社 商品部顧問・企画開発室長）

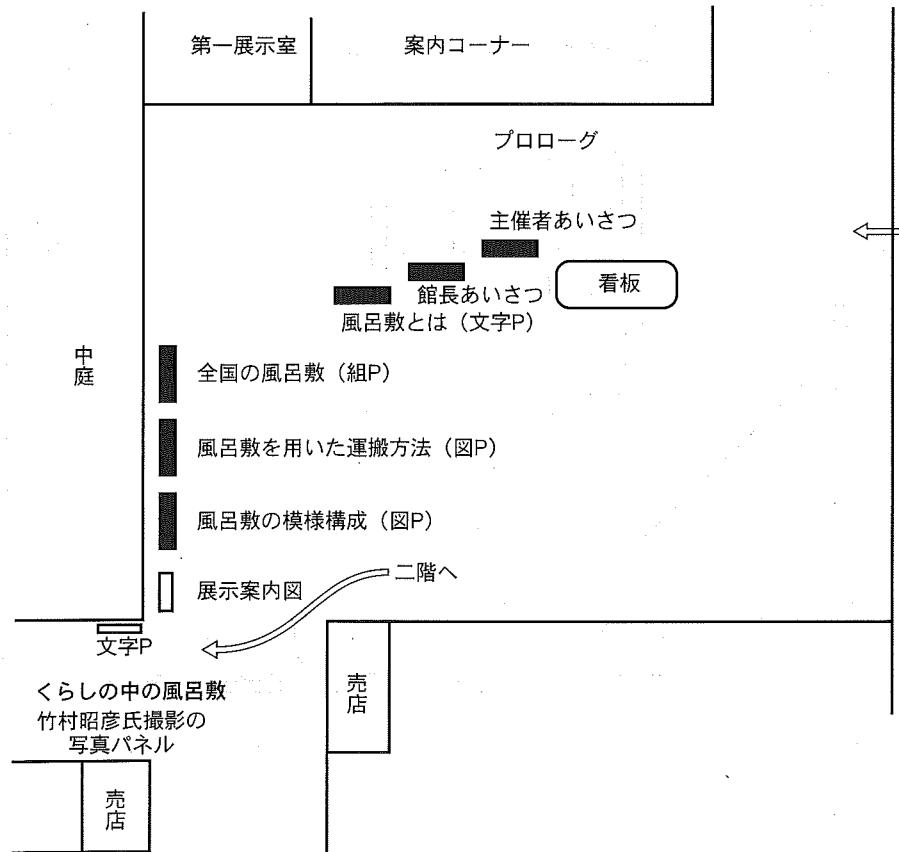
* 我が国における包む文化の歴史を「ふろしき」以前から現在に至るまでを解説する。

【入館料金】

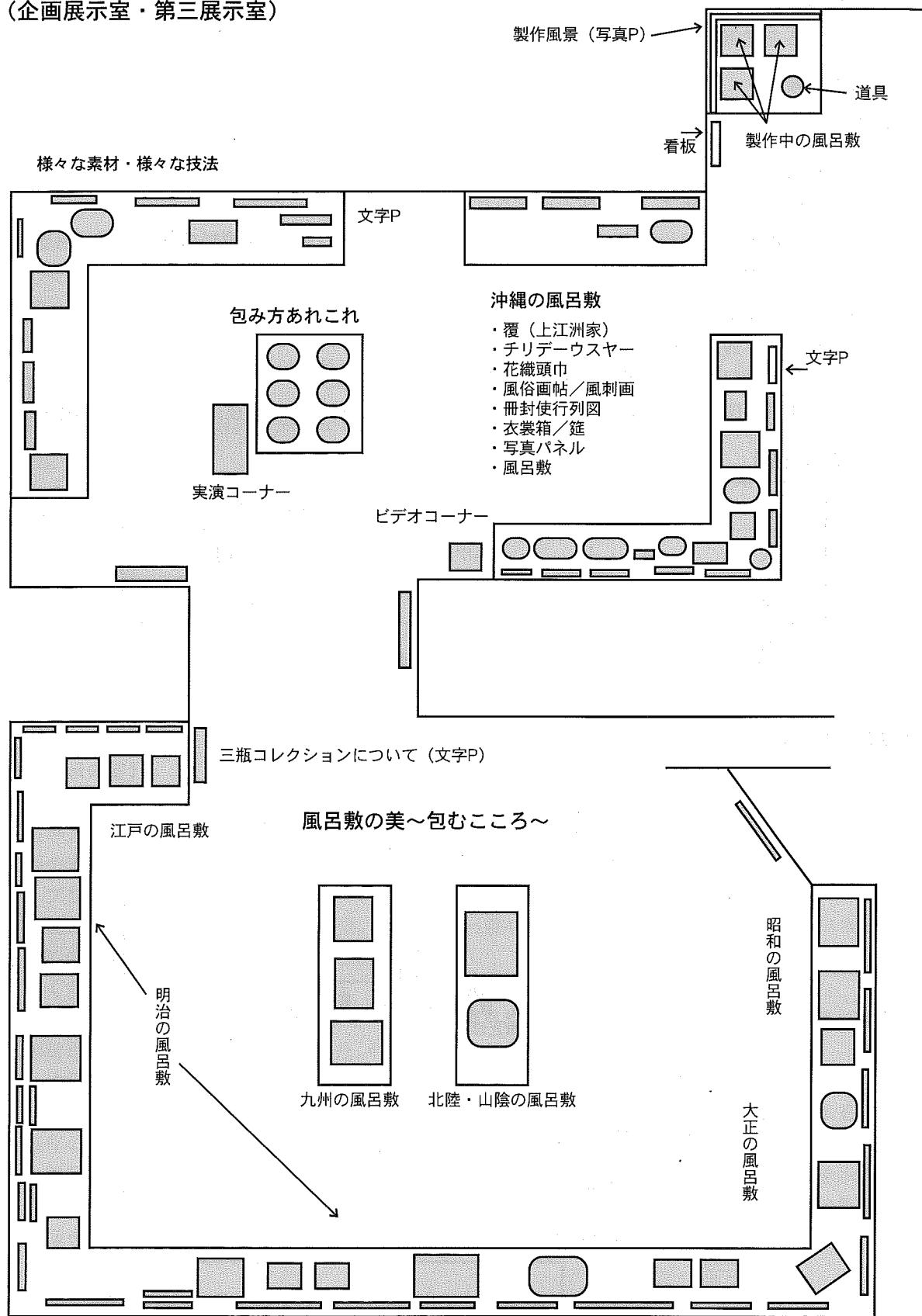
	個 人	団体(20名以上)
大 人	500円	400円
高 大 生	200円	160円
小 中 生	100円	80円

「包むこころ 風呂敷展」の展示図面

(1階ロビー)



「包むこころ ふろしき展」の展示図面
(企画展示室・第三展示室)



4 企画展

平成9年度「新収蔵品展」（担当：津波吉、与那城）

会期：平成10年8月18日(火)～9月27日(日)

場所：企画展示室

【開催主旨】

「新収蔵品展」は、前年度に寄贈、購入、収集、移管された資料を集め、広く一般に公開するとともに、博物館活動の普及啓蒙を促進することを目的とする。

【展示内容】

平成9年度の新収蔵品は、主に寄贈、購入によって1,063点もの資料が収蔵された。特徴的な展示品として、以前、基地内にあった安里橋支柱の返還に尽力されたジェームス・L・ディ氏（琉米歴史研究会名誉会長）が、今回も基地内にあった燈籠を寄贈された。また、田熊俊子氏は、樋口富麻呂氏が戦前収集した紅型の風呂敷や絹等の裂地を、その他自然史、歴史、美術工芸、民俗関係資料を46名の方々から寄贈していただいた。

これらすべての資料を展示公開することは、展示室のスペースから不可能であるため、各分野の担当学芸員の判断で、資料を抜粋し展示した。展示は、できるだけ各分野、寄贈者ごとに分けて行った。また、資料の補足として写真パネル等も展示了。

平成9年度のすべての新収蔵品及び寄贈者全員の氏名は、刊行したパンフレット「平成9年度新収蔵品展」に掲載した。

【展示目録】

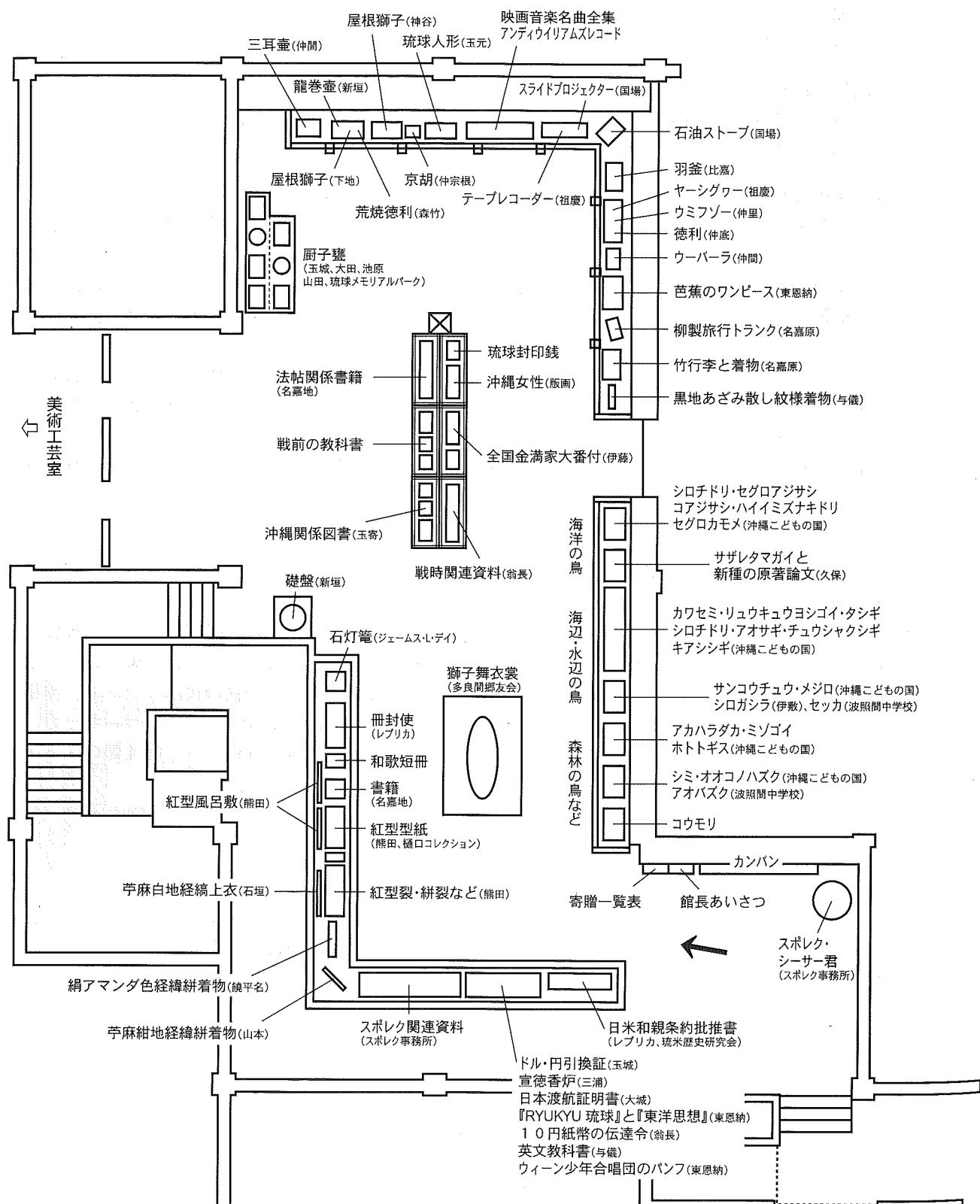
寄贈の部：日米和親條約批准書交換證書（複製）、『RYUKYU』などの書籍、沖縄関係図書・雑誌、英語教科書、出資證券、10円紙幣の伝達礼、全国スポーツレクレーション関連資料のシーサー君のぬいぐるみ、木綿白地経緯絹着物、唐フィーター、苧麻紺地経緯絹着物、苧麻白地絹縞上衣、木綿紺地松竹梅文様風呂敷、紅型型紙・絹裂地等、石燈籠、焼締龍巻壺、荒焼三耳壺、荒焼徳利、黒地あざみ散らし文様着物、琉球人形、柳製旅行トランク、沖縄の民謡レコード、屋根獅子、獅子舞衣裳、厨子甕等、新種幅模式標本（サザレタマガイ）、鳥類のシロガシラ、セッカ、シロチドリ、ミヅゴイ、オオコノハズク、カワセミ、コサギ、アカショウビン、哺乳類のオリイオオコウモリなどの剥製

購入の部：琉球封印錢、Aサイン証、戦前の教科書、琉球人舞楽図（掛幅装）、冊封使行列図（レプリカ）

【開会式及び感謝状授与式】

平成10年8月18日(火) 午前10:00に館長室において、寄贈者への感謝状贈呈式をおこなった。その後午前10:30から企画展示室入口で開会式及びテープカットを行い、企画展「平成9年度新収蔵品展」を開会した。

平成 9 年度 新収蔵品展示略図
(2F・企画展示室 1/120)



※()は寄贈者の姓である。ただし(レプリカ)とは複製のこと。
※()のない資料は、購入である。

琉球王国時代の植物標本展（担当：嵩 原 建二）

会期：平成10年7月10日（金）から8月9日（日）まで

会場：沖縄県立博物館1階ロビー・スロープ・企画展示室

【開催趣旨】

1853年にペリー提督が琉球に寄港した際に採集した植物標本が、現在米国ハーバード大学、ニューヨーク植物園、スミソニアン研究所などに保管されている。本企画展では沖縄タイムス社・海洋博記念公園都市緑化植物園・日本大学生物資源科学部の共同開催の下、ニューヨーク植物園、スミソニアン研究所、ハーバード大学の三者から、ペリー提督の遠征隊が採取した植物標本約160種を借用し、144年前の植物標本を里帰りさせた展示会を開催した。

同植物標本は琉球王国当時ペリー提督一行が立ち寄った首里城周辺や中城城周辺、国頭地域などで採集したもので、当時の植物相を伺い知る貴重な植物標本であり、沖縄の植物学を研究する上でも重要な学術標本である。また、同標本を広く県民に公開することで、王府時代の自然環境、特に植物的自然を理解し、今日の状況と比較することで、現生する植物種の変遷を知ることができ、今後の環境保全の基礎資料として役立てることができる。

なお、同展は沖縄タイムス社の創刊50周年を記念する事業の一環として実施されるものであり、県立博物館での開催後、引き続き都市緑化植物園内に移動して開催した。

【企画展の開催形式】

主催：沖縄県立博物館・沖縄タイムス社・海洋博記念公園都市緑化植物園・日本大学生物資源科学部

監修：日本大学生物資源科学部資料館・沖縄県立博物館・海洋博記念公園熱帯・熱帯都市緑化植物園

協力：沖縄生物学会・在沖米国総領事館・沖縄生物教育研究会・沖縄県高等学校理科教育研究協議会・ニューヨーク植物園・ハーバード大学・スミソニアン協会

協賛：日本植物園協会・沖縄海邦銀行・日本航空・オリオンビール・沖縄電力・平盛リゾートエンタープライズ

後援：沖縄総合事務局・沖縄県・那覇市・本部町・沖縄観光コンベンションビューロー・琉球放送・琉球朝日放送

【展示内容】

1. ペリーの琉球来航に関する展示コーナー

- ◎ペリーの顔写真・経歴等のパネル展示
- ◎遠征隊の目的や踏査（航行）ルート図
- ◎遠征ルートや調査（植物採集等）ルート図（1853年5月から6月の琉球探検）
- ◎「日本遠征記」の琉球探検記に添った挿し絵パネルと現在の景観写真パネル比較展示（スロープ展示）

2. 関連資料展示

- ◎ペリーの「日本遠征記」第1巻・第2巻・第3巻（沖縄県立博物館蔵）
- ◎ペリーの遠征に同行したハイネの石版画（寄託品：1点）
- ◎その他ペリーにまつわる資料（琉球王府評定書文書（複製）等）

3. 植物標本約160種の展示コーナー

- ◎米国ニューヨーク植物園とハーバード大学、スミソニアン研究所蔵の植物標本を特製パネルの中に張り込み壁展示。

4. 米国ニューヨーク植物園とスミソニアン研究所の紹介コーナー

5. 沖縄の植物研究史（年表・「琉球植物誌」その他）

6. 沖縄の環境と環境保全（沖縄県緑推進課及び読谷村の環境創出の取り組み）

【関連行事】

- (1) 特別文化講座

期日：1998年7月25日(土)

演題：「ペリー艦隊がみた琉球王国時代の作物について」

講演者：小山 鐵夫（日本大学生物資源科学部資料館教授）

(2) 博物館文化講座

期日：1998年7月18日(土)

演題：「ペリーの日本遠征－前進基地としての琉球王国－」

講演者：照屋 善彦（琉球大学名誉教授）

(3) 植物観察会

期日：1998年8月1日(土)

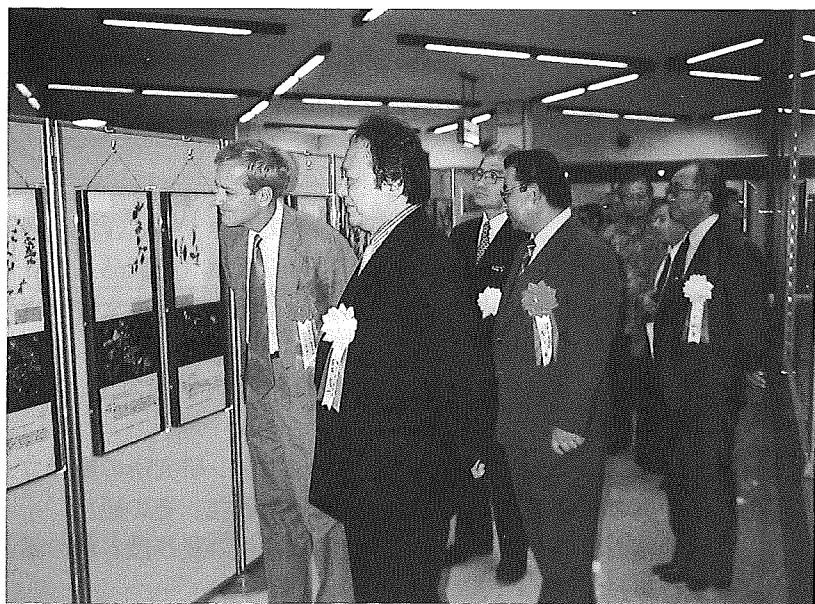
場所：末吉公園

講師：伊波 善勇（県立石川高校）・佐久本 故（元県立高校教頭）新城 和治（元琉球大學教授）・宮城 朝章（元県立高校教諭）

募集：親子25組（小学校高学年から中学生対象）



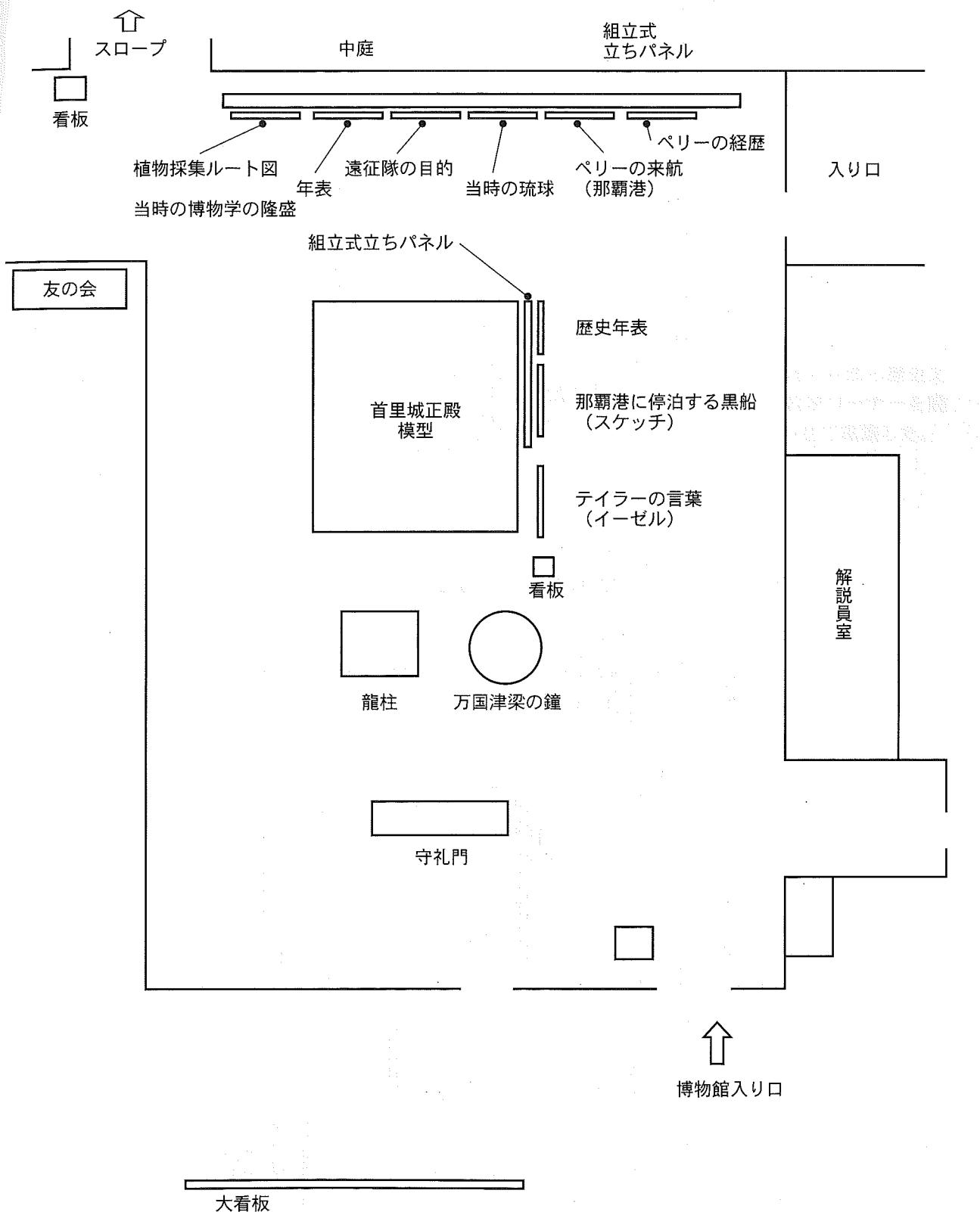
開会式



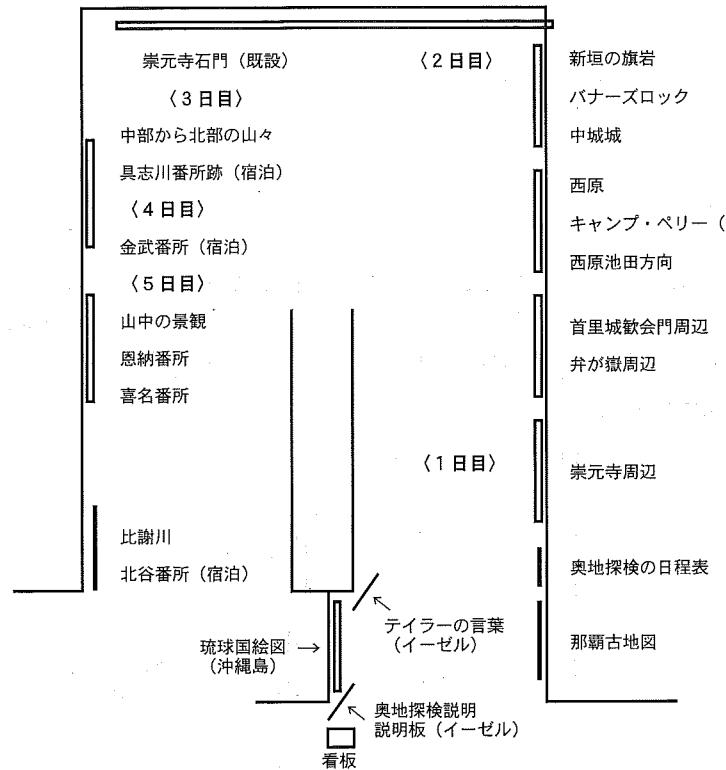
展示会場

企画展「琉球王国時代の植物標本展」展示構成図

導入展示（1階ロビー）

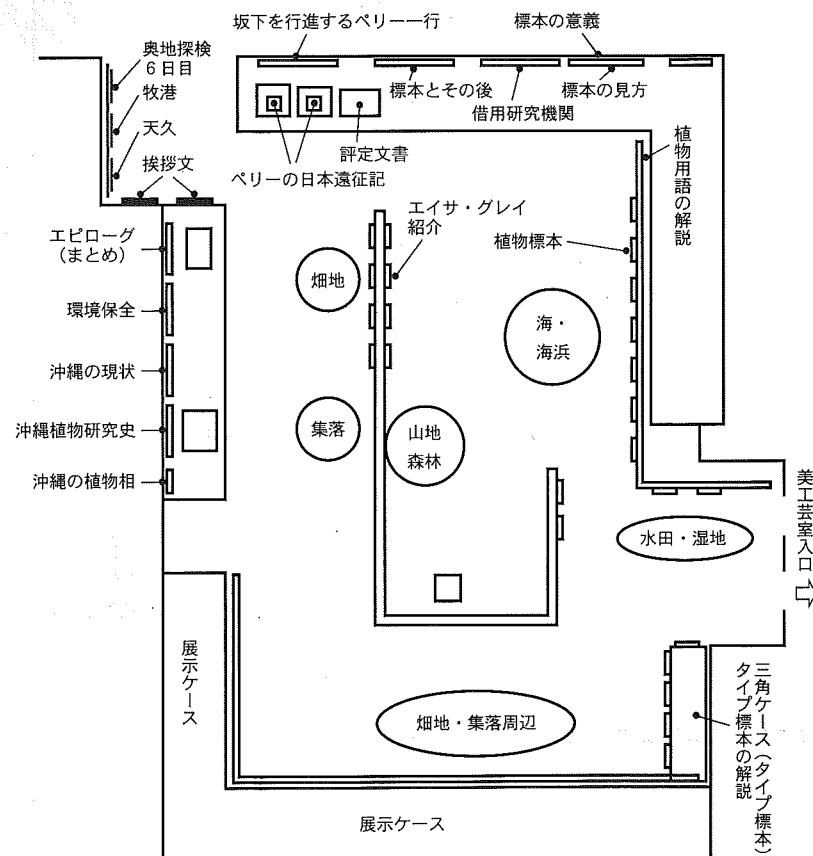


第一部 琉球の奥地探検（スロープ展示）



第2部 植物標本（企画展示室）

第3部 1998年沖縄



5 移動博物館

第23回移動博物館（担当：瑞慶山 昇）

会期：1998（平成10）年10月16日(金)～18日(日)

会場：伊是名村離島振興総合センター

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・伊是名村・伊是名村教育委員会

【趣旨】

本県は亜熱帯に属する島嶼県である。その地理的特性を生かし、歴史的に日本本土や中国東南アジアとの交易を盛んに行なった地域であり、琉球王国時代から独自の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していくしかなければならない。そのため沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の自然・歴史・文化」の展示を行なっている。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない、離島や遠隔地の方々にも、移動博物館の展示を見てもらうことによって、文化の広域普及を図っている。第23回目は伊是名村において開催した。

【内容】

〈展示会〉〈ビデオ放映〉〈自然観察会〉で構成した。展示は「古代の生物」「沖縄の自然と歴史文化」の2つの大きなテーマから構成し展示を行なった。また、展示会場にビデオ放映コーナーを設け、沖縄の伝統文花や自然に関するビデオを放映した。さらに自然観察会も合わせて実施した。

【展示会】

会場：伊是名村離島振興総合センター

会期：平成10年10月16日(金)～18日(日)

対象：幼・小・中・高校生、一般

入場：無料

【ビデオ放映】

内容：「琉球の風物」「琉球の民芸」「東洋のガラバゴス」「酒だ忍法コノハチョウ」「トンボの愛はハート型」他

【自然観察会】

講師：嵩原 建二（県立博物館学芸員）

日時：平成10年10月18日(日) 午前9時～12時

対象：学生、一般

定員：28名

【入場者数】

展示会 613人

自然観察会 31人 合計 644人

【予算】

総額 6,495,000円	内訳は、 緒謝金 22,000(円)	旅費 1,093,000(円)
	需用費 1,038,000(円)	通信運搬費 4,342,000(円)

【展示品目録】

I 古代の生物

マンモス（レプリカ）、サウロロフス（レプリカ）、タルボサウルスの頭骨（レプリカ）、プロバクトサウルス（レプリカ）、コレニア、アンモナイト、三葉虫、リュウキュウジカ、リュウキュウムカシキヨン、ミヤコノロジカ（レプリカ）

【自 然】

沖縄の生物

《剥製》

アカショウビン、オオコノハズク、カラスバト、カルガモ、キンバト、ゴイサギ、コガモ、コノハズク、サシバ、サンコウチョウ、シロハラ、シロハラクイナ、ズアカアオバト、タゲリ、トラツグミ、シジュウカラ、セッカ、ヤマシギ、ヤンバルクイナ、ヨタカ、リュウキュウヨシゴイ、ツミ、タシギ、カワセミ、シロチドリ、セグロカモメ、キアシシギ、チュウシャクシギ、アカハラダカ、ムナグロ、アオサギ、イリオモテヤマネコ、オリイオオコウモリ、ケナガネズミ、サキシマハブ、ハブ、コノハチョウ、ヤンバルテナガコガネ、アサヒナマキマダラセセリ、イソヒヨドリ、カワセミ、カンムリワシ、クロサギ、コサギ、アカショウビン、コチドリ、ツバメチドリ、ヤンバルクイナ、シロハラ、シロハラクイナ、アオバズク、アオサギ、カラスバト、キンバト

《写真パネル》

ダイシャクシギ、タゲリ、ケリ、ノグチゲラ、カツブリ、パン、コミニズク、ヒヨドリ、ミフウズラ、アカハラダカ、ムナグロ、メジロ、セイタカシギ、オオチドリ、リュウキュウヨシゴイ、アマミヤマシギ、アマサギ、キョウジョシギ、キアシシギ、ナミエガエル、ホルストガエル、イリオモテヤマネコ、ケラマジカ、ダイトウオオコウモリ、クメトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ、セマルハコガメ、ヨナグニサン

【考 古】

港川人想定復元全身像（レプリカ）、港川人頭骨（レプリカ）、爪形文土器（野国貝塚群B地点）、カヤウチバンタ式土器、くびれ平底土器、荻堂式土器、伊波式土器、尖底土器、カムイヤキの壺、弥生式土器（佐賀県出土）、線刻石板、炭化米、貝斧、石器、石鏃、自然遺物（貝殻）、高麗瓦、滑石製石鍋、青磁皿（湧田古窯跡）、青磁碗（湧田古窯跡）青磁盤（湧田古窯跡）、染付皿（湧田古窯跡）、染付猪口（湧田古窯跡）、口禿皿（佐敷グスク）、青磁碗（佐敷グスク）、ゴホウラ貝製品（伊是名貝塚）、石器（伊是名貝塚）、土器片（伊是名貝塚）

《パネル類》

発掘のようす（具志川市地荒原遺跡）、古代人の暮らし、層の重なり（今帰仁城跡本殿跡の版築工事）、貝塚の散布状況、渡具知東原遺跡（遠景）、伊是名グスク（遠景）、港川フィッシュヤー遺跡（近景）、野国貝塚群B地点（近景）、具志川島遺跡群（遠景）伊是名村「ふれあい民俗資料館」所蔵、勝連城跡（近景）、中城城跡（航空写真）、御物グスク（近景）、具志川グスクの鳥瞰図、首里城跡（正殿跡遺構検出状況）、復元竪穴住居跡（仲原遺跡）、イモガイの集積、貝輪装着人骨（具志川島遺跡群岩立地区）、ゴホウラの集積、改葬人骨出土状況（具志川島遺跡群岩立地区）、装身具（貝・骨製品）、沖縄原始・古代史年表、琉球弧の原始古代史、沖縄本島・周辺離島の主要遺跡分布図、貝の道、伊是名村の遺跡分布図、石斧の使用予想図

【歴 史】

《拓本・パネル類》

明孝宗より尚真王あて勅書、万国津梁の鐘銘文、円覚禅寺記、国王頌徳碑

《古錢類》

琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）、金円世宝・世高通宝・大世通宝、洪武通宝、嘉慶通宝、康熙通宝、紹熙通宝、永樂通宝、咸豐通宝、光緒通宝、大中通宝、淳熙通宝、天聖元宝、嘉泰通宝、開禮通宝、瑞平通宝、元豐通宝、嘉熙通宝、崇寧通宝、咸淳元宝、乾隆通宝、鳩目錢10（一括）、寛永通宝3束

《勾玉類》

リング1（18個連）、リング2（8個連）、リング3（8個連）、リング4（小勾玉にビーズ付き）

《印章》

尚育王の印

《金工品》

かんざし

《古文書・典籍類》

伊平屋島の銘苅大屋子職補任辞令書（乾隆元年、1736年）、伊平屋島の銘苅大屋子職補任辞令書（乾隆6年、1741年）、諸見御屋敷并御贍所潮平御川之図（同治9年、1870年）、おもろさうし（複製本）（巻16・17）、中山世鑑（複製本）（巻1・4）、琉球三省並三十六島図、沖縄志（巻1・2）

《写真パネル》

ランドサット沖縄諸島写真

○戦前の沖縄

初代尚円王御後絵〔鎌倉芳太郎氏撮影〕

首里那霸全景〔〃〕

識名園〔坂本万七氏撮影〕

サーダーグルマ〔〃〕

木臼つくり〔〃〕

頭に物をのせて運ぶ女性〔〃〕

青空教室〔〃〕

首里城正殿〔鎌倉芳太郎氏撮影〕

円覚寺仏殿〔〃〕

玉陵〔坂本万七氏撮影〕

竹製品を売る店〔〃〕

糸満風景〔〃〕

魚市〔〃〕

○沖縄戦

十・十空襲後の那覇の通堂、嘉手納海岸に上陸した米軍、戦闘中の米軍・至近弾をうける、亀甲墓を攻撃する米軍、摩文仁の洞窟にひそむ日本兵に降伏をよびかける、嘉手納村のキャンプに収容された日本兵捕虜、戦い終わって山から下りる避難民

○戦後～現在

戦災をうけた波之上宮、憔悴しきった老人、DDT散布、戦後のヤミ市、城前小学校での演芸会、スクラップブーム、第九回沖縄議会の状況一志喜屋知事、中学生と握手するブース高等弁務官、Aサインバーの内部・沖縄市、B52墜落事故、毒ガス輸送、アイゼンハワー大統領来沖、主席当選を果たした屋良主席、教公二法（琉球政府ビル前）、返還協定調印式をテレビで見まもる屋良主席、通貨交換所風景、7・30（ナナサンマル）交通変更、銘苅家住宅〔神谷堪正氏撮影〕、伊是名玉御殿〔〃〕、伊是名城跡〔〃〕

【美術工芸】

《絵画》

魚売りの図、琉球美女図、沖縄風景絵図

《漆器》

朱漆山水楼閣人物描絵湯庫、黒漆山水楼閣人物螺鈿卓

《書跡》

中山副使向元模短冊「対句」、宜湾朝保短冊和歌「梅告春迎」、玉川朝達書「梅花」

《染織》

木綿紺地諺谷山花織ティサジ、芭蕉絹縞紬子供着物、芭蕉絣ティサジ、麻白地稻妻に花の丸模様胴衣、芭蕉絹縞着物

《彫刻》

玉陵石獅子レプリカ（一对）

《陶器》

白釉黒流しからから、緑釉嘉瓶、赤絵山水文急須、線彫吳須差からから、油甕（アンダガーミ）、釘彫抱瓶、赤絵魚文皿、獅子（島常賀作）、緑釉線彫魚文長頸瓶（金城次郎作）

【民俗】

宮古ヘラ（宮古島）、ヒラ（糸満市）、ヒラ（奄美大島）、ヘラ（西原町）、ヒラ（具志頭村）、

マーピラ（波照間島）、ピラ（石垣島）、へら、アサンザニ（今帰仁村）、カノース（宮古島）、ンプリヤ（宮古島）、掘串（中城村あたりの海岸で収集）、クバの葉つと（与那国島）、ウブル（ビロウの釣瓶）（与那国島）、クバみの、クバガサ（石垣島）、クバうちわ、ヘーグルサー（久米島）、クバの葉の箒（徳之島）、クシンキ（こしき）（与那国島）、サゲゾーキ（与那原町）、バーキ（沖縄市）、ミーゾーキー（久米島）、ウーバーラー（佐敷町）、ウルワイチズカ（伊平屋村）、スガイ（竹製汁筒）（宮古島？）、ダキジチャー（栗国島）、タマンバーキ（国頭村？）、イビラフビク（奄美大島）、パジャー（大根干し）（名護市）

《写真パネル》

伊是名の土帝君、神アシャギ（伊是名村勢理客）、苧びき（坂本万七氏撮影）、クバ（ビロウ）（沖縄県立博物館の庭園）、イモ畑



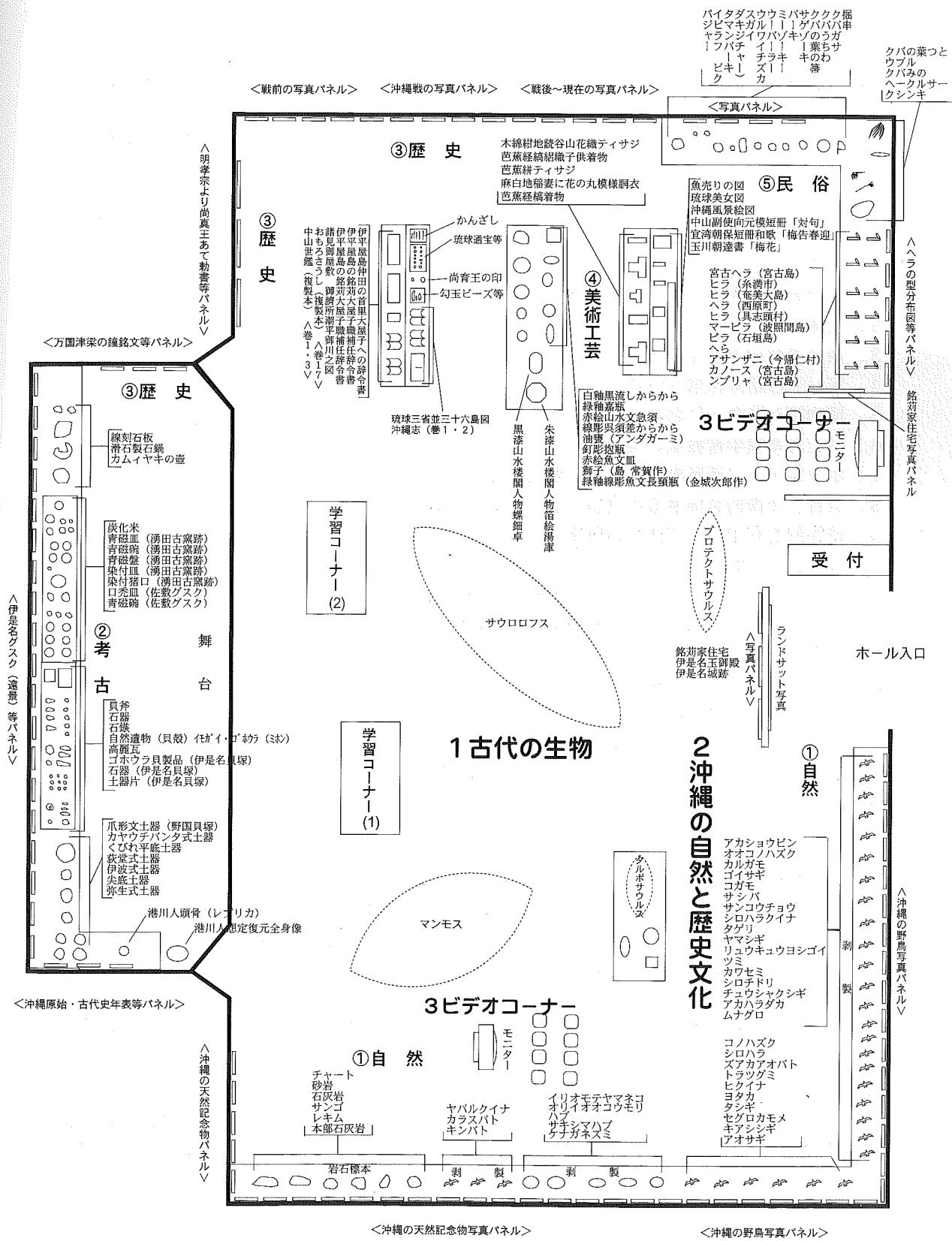
「歴史コーナー」観覧風景



「古代の生物コーナー」観覧風景

展示略図

〈伊是名村離島振興総合センター〉



V 教育普及活動

1. 教育普及活動の概要

本格的な生涯学習時代を迎える博物館に対する県民の関心は日々高まっている。博物館は資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としているが、同時に来館者の知的文化的な欲求を充足できるよう地球における文化発信基地としての役割も併せ持っている。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者それがいろいろな目的を持って来館している。

このような来館者の要求により多く応えていくため、当館では今年度も多くの博物館事業を実施してきた。

教育普及活動の面では、多くの県民が博物館を身近なものとして利用できるよう多彩な事業を計画し実施してきた。

以下、今年度に実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

1. 博物館文化講座の実施（特別文化講座を含め280回～290回）
2. 夏休み親子文化講座の実施
3. 衛星通信利用講座「すばる望遠鏡ファーストライト～動き出す世界一の眼」の実施
4. 第23回移動博物館（伊是名）の開催
5. 博物館シアターにおける映画の上映
6. 子ども体験学習教室の実施
7. ボランティア活動事業の実施（解説・点字資料の作成・博物館だよりの録音等）
8. 教育普及機器整備事業の実施（点字用機器の導入）
9. 博物館を利用する団体への研修
10. 来館者への展示解説
11. ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だよりの編集・発行
12. 学校による博物館学習のための事前打ち合わせ
13. 児童生徒の団体見学へのオリエンテーション
14. 児童生徒への学習相談
15. 団体見学者へのビデオサービス
16. マスコミ等への博物館事業の広報活動
17. 博物館活用呼びかけのための小中高等学校訪問
18. 講師派遣による学校支援事業（シーサーづくり・黒糖づくり・講演等）
19. 友の会への指導や援助

2 博物館文化講座

「博物館文化講座」は、当博物館の展示内容と関連する沖縄の自然・歴史・文化などについて、分かりやすく学習ができることを目的に1974年から始まった事業である。原則として、毎月第3土曜日の午後2時30分から4時30分までの2時間を利用し、当博物館講堂にて行っている。

1998年度は特別文化講座「組踊講演会」を含め12回の講座を実施した。展示会と関連した「ペリーの日本遠征－前進基地としての琉球王国－」や「ペリー艦隊が見た琉球王国時代の作物について－あわせて黒船が収集した琉球王国時代の植物の里帰りについて－」「包むこころふろしき－特別展・展示解説会－」「ふろしきの文化」では、展示内容をより理解する上で意義深い講演となった。また、「ハワイ・ビショップ博物館の活動」「生物の来た道」「沖縄の村踊り」などの講演も好評であった。「昭和期の中城御殿」の講演は、世子が住んでいた中城御殿についてのこととあって感心が高く人気があった。また、沖縄の文化財も世界遺産に登録しようという運気もあって「世界遺産について」の講演も好評であった。例年恒例となっている野外での「野鳥観察会」「グスクめぐり」の講座も人気が高かった。

1998年度講座は、1997年度7月より行っているアンケート調査を参考に企画されている。引き続きアンケート調査を実施し、講座計画に参加者の意見を反映させていきたい。

第280回「ハワイ・ビショップ博物館の活動」

講 師：太田 健一（当館学芸員）

日時・場所：4月18日(土) 当館講堂

内 容：ハワイのビショップ博物館の活動について紹介した。

参 加 者：32名

第281回「世界遺産について」

講 師：我那霸 念（県教育庁文化課指導主事）

日時・場所：5月16日(土) 当館講堂

内 容：世界遺産とは何か、種類や遺産推薦・登録の手続き、その条件などを解説した。また、現在沖縄県の文化財を世界遺産への登録・推薦に向けて取り組んでいることなどを解説した。

参 加 者：72名

第282回「生物の来た道」

講 師：木崎 甲子郎（琉球大学名誉教授）

日時・場所：6月20日(土) 当館講堂

内 容：最近の新しい考え方を織り交ぜながら、琉球列島の陸橋や生物の渡来について紹介した。

参 加 者：63名

第283回「ペリーの日本遠征－前進基地としての琉球王国－」

講 師：照屋 義彦（琉球大学名誉教授）

日時・場所：7月18日(土) 当館講堂

内 容：ペリーが来航した頃の時代背景について考察した。

参 加 者：115名

第284回「ペリー艦隊が見た琉球王国時代の作物について－あわせて黒船が収集した琉球王国時代の植物の里帰りについて－」

講 師：小山 鐵夫（日本大学教授）

日時・場所：7月25日(土) 当館講堂

内 容：ペリー艦隊が持ち帰った琉球の植物を紹介しながら当時の琉球の自然環境を解説した。

参 加 者：130名

第285回「沖縄の村踊り」

講 師：當間 一郎（当館館長）

日時・場所：9月19日(土) 当館講堂

内 容：旧暦8月に沖縄各地で催される村踊りのその地域にしかない舞踊や組踊を紹介・解説し、ビデオを鑑賞した。（手話通訳有り）

参 加 者：80名

第286回「包むこころ ふろしき－特別展・展示解説会－」

講 師：三瓶 清子（郡山倭文の会会長）

日時・場所：11月17日(火) 当館講堂

内 容：特別展の展示資料の解説及び風呂敷を使った包み方の実演を行った。

参 加 者：144名

第287回「ふろしきの文化」

講 師：竹村 昭彦（宮井株式会社商品部顧問、企画開発室長）

日時・場所：12月5日(土) 当館講堂

内 容：我が国における包む文化の歴史について、文化や風土・生活と絡めて「ふろしき」以前から現在に至るまでを解説した。

参 加 者：130名

第288回「野鳥観察会」

講 師：嵩原 建二（当館学芸員）

日時・場所：1月16日(土) 漫湖周辺

内 容：漫湖の干潟に渡来する野鳥の観察や、マングローブ林や小動物などの干潟を取り巻く環境などについて学習した。

参 加 者：32名

第289回「グスクめぐり」

講 師：當眞 翠一（県教育庁文化課課長補佐）

矢沢 秀雄（県教育庁文化課調査嘱託員）

日時・場所：2月20日(土) 14:00～17:00糸数グスク・玉城グスク

内 容：玉城村内に所在する糸数グスクと玉城グスクを訪ね、そこで出土した遺物を見学し、沖縄のグスク時代について学んだ。

参 加 者：36名

第290回「昭和期の中城御殿」

講 師：真栄平房敬（那覇市文化財調査審議会委員）

日時・場所：3月20日(土) 当館講堂

内 容：尚家の世子の住まいであった中城御殿の屋敷や生活の様子について語った。

参 加 者：160名

3 夏休み親子文化講座

夏休みは、子どもたちが学校を離れ自ら様々なことを学ぶことが出来る絶好の機会であり、同時に親子の触れ合いを深める機会が持てる“時”でもある。この事業は、この様な夏休みを親子で有意義に過ごし、あわせて郷土の文化を学ぶ場を提供することを目的に1991年から実施されている。1997年度まで夏休み「歩く・見る・作る」教室として行ってきたが、1998年度から名称を変え「夏休み親子文化講座」として実施している。

原則として、講座は夏休み期間中の土曜日または日曜日の午前9時から午後1時までの4時間とし、場所の指定がない場合は当館講堂を利用している。

1998年度は、「植物観察会」「沖縄の織物について」「標本鑑定会」の3講座を開催した。

「植物観察会」

講 師：伊波 善勇（石川高校教諭）

佐久 本敵（元県立高校教頭）

新城 和治（元琉球大学教授）

宮城 朝章（元県立高校教諭）

日時・場所：8月1日(土) 那覇市末吉公園

内 容：観察に入る前に植物標本の作り方を学んだ後、4グループに分かれ公園内の植物の特徴や植生環境を観察して廻った。

参 加 者：31名

「沖縄の織物について」

講 師：宮平 初子（染織家）

日時・場所：8月15日（土）博物館講堂・宮平染織工房

内 容：博物館講堂にて戦前からの首里の織物について講演した後、工房へ移動し、首里的織物の染織方法や織り方等織物が出来るまでの課程を学び、実際に機織り機で織る体験をした。

参 加 者：38名

「標本鑑定会」

講 師：佐久本 敵（元県立高校教頭）

久保 弘文（沖縄県栽培漁業センター研究員）

佐々木健志（琉球大学理学部）

神谷 厚昭（当館学芸員）

日時・場所：8月29日（土）博物館講堂

内 容：個人で夏休み期間中に作った自由研究を対象に、岩石や植物、貝、昆虫などの標本の鑑定を子ども達と図鑑を開きながら行った。

参 加 者：35名

4 衛星通信を利用した公開講座

主 催：科博衛星通信利用推進協議会・国立天文台

協 力：NHK、KDD、NTT

会 場 主会場 国立科学博物館

副会場 札幌市青少年科学館、白瀬南極探検記念館、仙台市天文台※

富山市科学文化センター、加賀市中谷宇吉郎雪の科学館

名古屋市科学館※、大阪市立科学館※、兵庫県立西はりま天文台※

福岡市立少年科学文化館、沖縄県立博物館

（※は、TV会議システムによる双方向会場）

この講座は、平成11年2月13日（土）・14日（日）の二日間に亘り、当博物館講堂で実施された事業である。我が国はハワイ島マウナケア山頂に单一鏡としては世界一の口径となる口径8.2mのすばる望遠鏡を建設中である。そこで、本事業は来年のオープニングに先立ち初めて天文学的なデータを取得するファーストライトイベントを、衛星通信を用いて国内各機関に配信することにより、科学と宇宙に関する関心を高め、かつ科学教育に寄与することを目的に開催された。

〔内容〕

両日ともほぼ同じ内容で、メイン会場である国立科学博物館やハワイ観測所を拠点に、すばる望遠鏡の仕組みや天体画像について学び、双方向会場（TV会議システム）で行われているイベントの紹介などが行われた。

また、プログラム最後には質疑応答の時間も設けられ、各会場からFAXで送られた質問にハワイ観測所の方が答えるという形式で行われた。

14日には、「すばる望遠鏡への期待」というテーマでトークショーが行われ、ハワイ観測所をはじめ各会場にいるゲストの方々のすばる望遠鏡、または今後の天文学への期待などがTV会議システムを利用して語られた。

〔総括〕

「すばる望遠鏡」というテーマがタイムリーだったこともあり、小学生から一般の方まで多数の講座参加者が見られた。また、参加者からの質問にハワイ観測所の方々が親切丁寧に回答して下さったので、更にすばる望遠鏡や宇宙、天文学に関する関心を持つ良い機会になった。沖縄の会場から多くの質問が出、参加者の関心の高さが伺われた。

前年度に引き続き、通信衛星を利用した講座を持てたことは、講演会や講座の持ち方に幅が出来、今後の事業化への活動参考にもなった。また、より充実した博物館普及活動につながったのではないか。

5 特別文化講座「組踊公演会」

（担当者：太田健一、宮平真由美）

日 時：平成11年3月13日（土）午後5時～午後7時

場 所：沖縄県立博物館講堂

入場料：無料

入場者：355名

〔開催趣旨〕

組踊は、1972年（昭和47）5月国指定無形文化財となり、平成9年12月には、国立組踊劇場の建設場所も浦添市に決定し、組踊に対する県民の関心は高い。このような機会に沖縄県立博物館で組踊を上演することは、県民の郷土に対する関心と認識を深め、若い世代へ郷土文化を継承し、

新しい文化の創造に寄与するうえで重要な意味をもつ。

上演した組踊「未生の縁」は、1988年（昭和63）に、当間一郎館長が発見した組踊四番の中の一つであり、1756年（尚穆5）に御冠船踊の演目として、首里城内の特設舞台で上演されたものである。1997年にその舞台となった豊見城村で241年ぶりに上演され、この組踊をゆかりのある首里の地で上演し広く県民に見ていただることは、大変意義深いことである。そこで、豊見城村文化協会及び豊見城村教育委員会や沖縄県立博物館友の会の協力を得て、特別文化講座と位置づけ上演した。

〔開催形式〕

主催：沖縄県立博物館

共催：豊見城村文化協会、豊見城村教育委員会、沖縄県立博物館友の会

〔内 容〕

第一部 琉舞四題 豊見城村文化協会

「かぎやで風」	仲村光子	〈紋園乃会〉	佐久本八重子	〈敏風会〉
	座安栄子	〈琉扇会〉	島尻ひさみ	〈翔節会〉
「摩（ぜい）」	島袋智子	〈玉扇会〉	仲大盛スエ子	〈玉扇会〉
	金城美保	〈玉扇会〉		
「ムンジュルー」	外間智子	〈敏風会〉		
「加那ヨ一天川」	森 久美	〈寿宜の会〉	高良かおり	〈寿宜の会〉

第二部 組踊「未生の縁」 豊見城村文化協会

（配役）	保栄茂按司	（嘗銘政一）	をなぢやら	（大城成子）
	玉の乙鶴	（高良亜矢子）	武富の子	（富銘正幸）
	なへたる	（當銘千鶴）	供	（大嶺 隆）
	平良按司	（屋我嗣儀）	をなぢやら	（富里信子）
	餞波のひや	（佐久本稔）	若按司鶴千代	（赤嶺さわの）
	かしき	（大城正信）	供	（大城栄信）
	きょうぢやこ持	（佐和田育恵、佐和田法恵）		
	列女	（大城千賀子、高良香織、国吉さやか）		
（地謡）	唄・三線	（喜屋武良栄、首里良三、玉城利和、大城隆宏、富里五夫）		
	箏	（外間とみ子、上原妙子、与儀博子）	笛	（冨山維佐子）
	太鼓	（西俣尚子）	胡弓	（高良利雄）

立ち方演出：高江洲清勝（国指定重要無形文化財「組踊」保持者）

舞台監督：玉城利和（豊見城村文化協会組踊地謡研修部書記）

〈あらすじ〉

（第一段）

保栄茂按司と平良按司は、幼い頃からの友人で、もし二人に子供が生まれたら、結婚させようと、親同士の約束をする。念願がない保栄茂家に女の子、平良家に男の子が誕生する。平良按司の夫人は鶴千代が生まれて三年後に亡くなり後妻を迎える。後妻との間にも次男が誕生する。

（第二段）

平良按司の長男鶴千代は継母に毒をもられて失明寸前になる。保栄茂按司は、娘乙鶴が十二、十三歳頃に亡くなる。平良按司は鶴千代の目が不自由なため、両家の婚約解消を申し出るが、保栄茂家にことわられる。平良按司と継母は、保栄茂家の婿養子にするよりはと八重瀬嶽の洞穴へ捨てる。

（第三段）

若按司鶴千代は、八重瀬嶽につく。家臣の二人は良い時期をお待ちくださいとなぐさめ、うしろ髪を引かれる思いで別れる。

（第四段）

保栄茂家の乙鶴は、その夜、夢に観音様があらわれ「鶴千代の病は、手厚く介抱すれば全快するであろう」とつげられる。そして観音様のお告げを堅く守って、八重瀬嶽から鶴千代を救い出す。

(第五段)

保栄茂家では鶴千代の養生を続けたところ、観音様のお告げ通り全快する。

(第六段)

保栄茂家家臣の武富の子と鶴千代は、平良按司に事の次第を報告する。平良按司は、大いに怒り、妻を追い出すことを命ずる。鶴千代は、生みの母よりも育ての母のご恩は計り知れないでお許しくださいと父に懇願する。そのため、平良按司は妻の仕打ちを許す事を約束する。繼母はこれまでのおこないを悔いる。そして、保栄茂家では、平良家からもどった鶴千代の全快をお祝いし、結婚の祝いを催す。

[総括]

無形文化財については、展示などが難しく、前年度に続き、今回も「組踊公演会」を実施できたことは、県民に郷土の文化の一つとして組踊を再認識してもらうためにも意義深いものであった。また、観客の中には、感極まって涙するものもあり、350名余りの観客が終始静かに鑑賞し、大盛況裡に終えた。今後も、このような無形文化財を鑑賞する機会を県民に提供していきたい。

6 博物館シアター

映像や音響をとおして、郷土文化と世界の芸術文化を、広く県民に紹介するために実施している事業である。

自然、歴史、文化、民俗、風土などをテーマにした映像、および世界の芸術文化をあつかった映像等の映写会を内容とし、県立博物館講堂において午後2時より実施している。

平成10年度は、世界の巨匠、黒澤明の代表作を紹介した「黒澤明の世界Ⅱ」、日本の名作児童文学を紹介した、夏休み親子シアター「アニメで楽しむ日本の名作」、世界の映画史に残る名作の中から、「永遠の妖精」と呼ばれたオードリー・ヘプバーン主演作を紹介した「なつかしの名作」の3シリーズ・5本の映画を上映した。

シリーズ【黒澤明の世界Ⅱ】

第38回 期日：5月17日(日)

映画：「羅生門」モノクロ88分

内 容：黒澤明と脚本家の橋本忍が、芥川竜之介の「藪の中」を原作に脚色し、宮川一夫のカメラをつかい、モノクロームの映像美で、独特な世界を表現した。日本映画として、はじめて世界でグランプリを受賞した、記念すべき作品。第12回ベネチア国際映画祭グランプリ、第24回アカデミー賞最優秀外国映画賞。

入場者：134名

第39回 期日：6月14日(日)

映画：「野良犬」モノクロ105分

内 容：社会事件をもとに、黒澤明が戯曲構成の才能を生かして、ドキュメンタリー・タッチで映画美を創り上げた。黒澤映画を代表する作品の一つ。第1回芸術文部大臣賞。

入場者：176名

シリーズ夏休み親子シアター【アニメで楽しむ日本の名作】

第40回 期日：7月26日(日)

映画：「二十四の瞳」カラー71分

内 容：瀬戸内海に浮かぶ小豆島を舞台に、一人の若い教師と12人の教え子との、心あたたまる交流を描いた物語。

入場者：127名

第41回 期日：8月9日(日)

映画：「銀河鉄道の夜」カラー108分

内 容：宮沢賢治の名作「銀河鉄道の夜」を原作に、アニメーション化した作品。文部省特選。

入場者：103名

シリーズ〔なつかしの名作〕

第42回 期日：12月13日(日)

映画：「ローマの休日」モノクロ118分

内容：ヘプバーンのアメリカ映画初主演作。「永遠の妖精オードリー」が誕生した記念すべき作品。ウィリアム・ワイラーがローマに出向いて監督した作品。現代版おとぎばなしを、ロマンティックな雰囲気の中に人生の哀別離苦を甘く描いた作品。アカデミー主演女優賞、脚本賞、衣装デザイン賞。

入場者：127名

7 子ども体験学習教室

〈事業の経過〉

子ども体験学習教室の事業は、平成5年度から博物館の新規事業として開始され、本年度で7年目に入りました。

〈趣旨〉

平成4年度から第2土曜日が学校休業日になり、さらには平成6年度からは第4土曜日も学校休業日となりました。それにともない子どもたちの活動の機会も増えてきました。当館でも「休業日」を利用して子どもたちが郷土や自然、文化を自ら進んで学べるように平成5年度からこの事業をスタートさせた。

ともすれば生活体験の乏しくなりがちな子どもたちに多くの活動体験の場を提供し、心豊かな子どもを育てていくのが本教室の目的です。

〈実施講座〉

「芋とイモ料理を作ろう」

講師：新垣 明（JAサンライズ西原営農指導員）

期日：4月25日(土)、6月13日(土)、9月12日(土)、11月14日(土)

場所：博物館講堂及び体験農場・博物館前広場

参加者：延べ216名

内容：イモ（サツマイモ）の特性や栽培方法について学んだ後、実際に農場に出かけ植え付けから、除草、肥育管理、収穫・調理までの一連の作業を6ヶ月間を通して企画しました。台風や旱魃などの自然災害に強い作物であるイモの葉先から根元まで活用した先人の工夫をンムクジ（イモ澱粉）づくり・イモを使った数々の料理づくりを通して体験した。

「沖縄の岩石しらべ」

講師：我謝 昌一（沖縄県立那覇高等学校教諭）

期日：5月9日(土)、5月23日(土)、7月11日(土)

場所：博物館講堂及び知念村・玉城村の岩石採取地

参加者：延べ123名

内容：実際に野外に出て、岩石採集の方法や資料の整理の仕方を学習しながら岩石標本の採取を行った。その後、岩石資料の観察、分類・整理や標本箱の製作などを通して、沖縄の島の成り立ちについて学習を深めた。

「古代人のくらしを体験しよう」

講師：當銘 由嗣（沖縄考古学会会員）

期日：7月25日(土)、8月2日(土)、8月16日(土)、8月22日(土)、8月29日(土)

場所：当博物館講堂及び前庭・仲原遺跡（伊計島）

参加者：延べ208名

内容：沖縄の縄文土器（平底の深鉢型）を学習した後、土器づくりのための土こね、土器づくり、野焼き、自作の土器を用いての煮炊き体験、復元した竪穴式住居での寝泊まり体験等を行った。自作土器での魚貝類の煮炊きは参加者各自が感動する貴重な体験となった。次年度以降も隔年置きに継続して行いたい事業である。

「はりこのおもちゃを作ろう」

講 師：国吉 清子（元小学校校長）

期 日：1月23日(土)、2月13日(土)、2月27日(土)

場 所：当博物館講堂参加者：延べ108名

内 容：沖縄の代表的な玩具である「はりこ」の仕組みやその製作過程を学び、博物館ボランティアの皆さんを協力を得て、作品の製作を行った。

「黒砂糖づくり」（追加事業）

講 師：仲底 善章（沖縄県立博物館指導主事）

期 日：3月14日(日)、3月28日(日)

場 所：当博物館前庭

参加者：延べ72名

内 容：沖縄の基幹作物であるサトウキビの栽培方法、それぞれの品種の特性、収穫作業に必要な道具類等について、説明を受けた後、キビの収穫・脱用作業、簡易サトウキビ搾り機でサトウキビの搾り体験等を行いながら、黒砂糖づくりに挑戦し、自分たちで作った黒砂糖の味を堪能した。

8 ボランティア活動

〈ボランティア活動の事業の経過〉

平成5年7月1日に沖縄県立博物館ボランティア活動実施要項が施行され、これにもとづき教育ボランティアと資料ボランティアの育成に努めてきた。

教育ボランティアは、展示解説・文化講座・体験学習教室・相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的な活動を行う。資料ボランティアは調査研究活動に必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動を行う。

ボランティアとして登録できるものは、原則としてボランティア養成講座を終了した者とし、登録後は解説勉強会で研修を受けながら、活動を続けてきた。

〈趣旨〉

週休2日制が定着しつつあるなかで、生涯学習への要求が高まりつつある。このような時代に多くの県民に学習の機会を提供し、自己啓発の場とする目的として、本事業を実施した。

〈事業の実施〉

ボランティア養成講座を企画しその終了者の中からボランティアの登録を進めて、ボランティア活動の充実を図った。

1 ボランティア養成講座（受講者95名）講師は県立博物館学芸員

第1回「博物館におけるボランティアの役割」

講 師：前田 真之

期 日：7月8日

内 容：博物館におけるボランティア活動の意義、実際の活動の様子を紹介し、また今なぜボランティアが求められているのかを掘り下げて話す。

第2回「沖縄の染織」

講 師：伊波 慶子

期 日：7月15日

内 容：紅型と沖縄の織物について、そのすばらしさを歴史的・技法的に考察する。

第3回「沖縄の岩石と化石」

講 師：神谷 厚昭

期 日：7月22日

内 容：沖縄の岩石・地形については、琉球列島の地質概説と琉球石灰岩の話。沖縄の化石については琉球石灰岩に伴う化石のこと。館内の岩石化石をとりあげる。

第4回「焼物のつくりかたのはなし」

講 師：津波古 聰

期日：7月29日

内容：焼物の工程を細かく説明をする。陶土や輶轆・手びねり・型どり・流し込みのこと、釉薬から窯の話まで、実物・失敗作など示しながら解説する。

第5回「埋蔵文化って何だろう」

講師：大城 慧

期日：8月5日

内容：埋蔵文化財とは何か、どのようにして見つけるのか、年代はどのようにして決めるのかそのノウハウについて、発掘経験を生かし楽しく解説をする。

第6回「組踊りの写本を読む」

講師：當間 一郎

期日：8月12日

内容：「未生の縁」の変体かなで書かれた写本をいきなり読み出した。慣れない文字に戸惑いながら聞く。1997年に241年ぶりの上演がなされた。

第7回「琉球王国の歴史」～大交易時代の琉球を中心～

講師：萩尾 俊章

期日：8月19日

内容：首里城の歴史的変遷（創建年代・首里城の確立・万国津梁の鐘）と大交易時代の進貢貿易と冊封使について解説。

第8回「博物館ってどんなところ？」

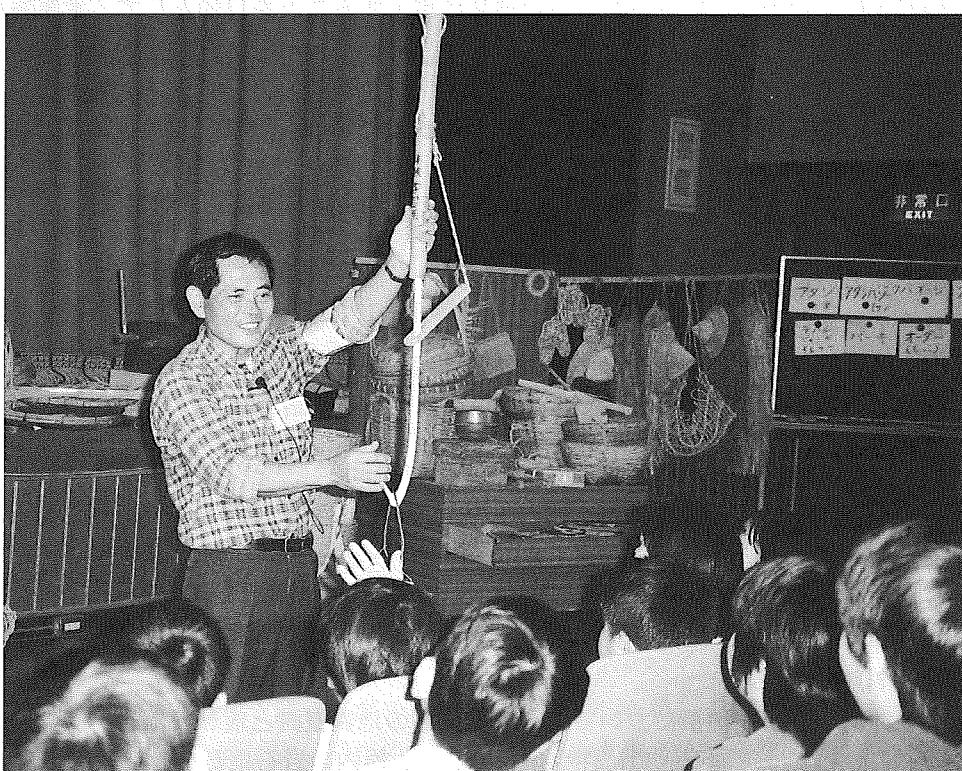
講師：仲底善章

期日：8月26日

内容：博物館の意味・目的・機能について。沖縄県立博物館の概要について。教育普及活動の実際について。

2 ボランティアの登録

4月の登録が44名、10月の登録が25名あった。



小学3年生の民俗体験教室で解説する展示解説ボランティアの与儀さん

3 ボランティア専門講座

登録ボランティアに対しさらに専門知識を身につけるための講座を開設する。

月 日	演 題	講師紹介	講 師 名
10月 2日	芋を素材にした郷土料理	松本料理学院長	松 本 嘉代子
10月 9日	和紙作りについて	蕉紙庵	安慶名 清
10月23日	視覚障害者と教育の方法	県立盲学校	仲宗根 恵 藏
10月30日	壺屋の歴史について	壺屋焼物博物館館長	渡名喜 明
11月 6日	琉球料理の特徴と暮らしの知恵	松本料理学院長	松 本 嘉代子
11月13日	七玉そろばんの原理とその使用方法	全珠連顧問	仲 西 義 勝
11月20日	沖縄の季節と植物	元県立高校教頭	佐久本 敏
11月27日	転換期の教育	元教育長	津 留 健 二
12月 4日	沖縄のグスクを見る	考古学会会長	嵩 元 政 秀
12月11日	伊是名島の文化	元沖縄タイムス	漢 那 安 輝

9 支援活動

団体への学習支援

生涯学習時代を迎え、郷土の歴史や文化、自然に対する関心は児童生徒のみならず多くの階層にまたがってきている。そのためそれぞれのニーズに対応した形で研修を進めていくことが課題となってきた。

1. 小中学校への取り組み

- ・小中学校の児童に対しては、見る・触る・体験するの五感を活用した学習を展開するためとりわけ3年生を対象とする資料などを収集し、学習で活用した。
- ・暮らしの道具を使う中から学習課題等について理解が深まるよう取り組む。

2. 高等学校への取り組み

- ・利用者の少ない高等学校へは学校訪問を実施し、進学内定者・県外就職内定者への郷土学習の実施、博物館の活用を呼びかけてきた。
- ・このよびかけに対し、中部商業高等学校からは、高校生の海外研修前に沖縄の歴史に関する講師依頼があり、講師を派遣した。
- ・学校訪問の結果、首里東高校は大学センター試験のために施設を提供したその日を博物館における郷土学習の日と設定して来館した。

3. 企業等による博物館研修

- ・平成7年度に行われた琉球銀行の新入行員研修では博物館を活用した郷土学習が行われ、それに対して講演という形で協力をしてきた。本年度は、博物館と連携した形での企業研修は実施されなかった。

4. デイ・サービス事業等の一環としての博物館来館

- ・デイ・サービスの一環として来館された団体が、平成10年度は6団体あった。
- ・休息なしの長時間見学は無理なので、リラクゼーションの観点から今後博物館がどのような対応を取れるのか検討を要する。

VI 博物館実習

県内の3つの大学では、現在、博物館学芸員資格取得のための博物館学の講座が開設されているところである。本館では平成5年度まで県外の大学から10名前後の実習生を受け入れてきたが、平成6年度からは沖縄国際大学の学生を実習生として受け入れることになり、さらに平成7年度から琉球大学でも同科目が開設されたことに伴い、実習生を受け入れてきた。

県内大学からは琉球大学、沖縄国際大学、沖縄県立芸術大学の3大学からの学生を対象とし、県外大学からの実習生については、地元出身の学生を対象として受け入れてきた。

平成9年度までに県内外の大学から103名の実習生を受け入れ実習指導を行ってきた。

平成10年度は、琉球大学13名、沖縄国際大学12名、沖縄県立芸術大学7名の他に九州産業大学1名、國士館大学1名、東京女子大学1名、名古屋芸術大学1名、を受け入れて実習を行った。

実習した科目と指導学芸員、及び実習期間と実習生は下記のとおりであった。

実習科目と指導学芸員（第1回博物館実習）

- (1) 博物館の管理運営（當間 一郎）
- (2) 博物館関係法規・組織・博物館関係団体（新垣 隆雄）
- (3) 博物館の予算・経理（新垣 隆雄）
- (4) 保存施設と保存環境（真保栄 勝）
- (5) 民俗資料取扱実習（太田 健一）
- (6) 美術工芸資料（漆器・陶器・書画）の取扱実習（津波古 聰）
- (7) 教育普及活動①（瑞慶山 昇）
- (8) 展示解説の実際と教育普及補助業務（上原 敏子・喜久川智子）
- (9) 歴史資料の取扱実習（萩尾 俊章）
- (10) 博物館資料受入・分類・登録・原簿記述実習（與那嶺 一子）
- (11) 美術工芸資料（染織・書跡）取扱実習（與那嶺 一子）
- (12) 教育普及の考え方と実際（前田 真之・伊波 悅子）
- (13) 教育普及活動②（前田 真之・伊波 悅子）
- (14) 博物館資料取扱実習（展示会の準備と片付）（津波古 聰）
- (15) 博物館資料取扱実習A班（嵩原 建二・神谷 厚昭・与那城 善春）
- (16) 博物館資料取扱実習B班（萩尾 俊章・太田 健一）
- (17) 博物館活動の概要（大城 慧）
- (18) 学芸業務の考え方と実際（大城 慧）
- (19) 考古資料の取扱実習（大城 慧・宮平 真由美）
- (20) 自然史資料取扱実習（地質・岩石）（神谷 厚昭）
- (21) 企画展（琉球王国時代の植物標本展）の実際と各展示室の観察実習（大城 慧）

実習期間

第1回 沖縄県立芸術大学・九州産業大学・國士館大学・名古屋芸術大学

平成10年6月29日(月)～7月10日(金)

第2回 沖縄国際大学・東京女子大学・名古屋芸術大学

平成10年8月10日(月)～8月21日(金)

第3回 琉球大学

平成10年11月9日(月)～11月20日(金)

実習生

第1回 沖縄県立芸術大学（7名）・九州産業大学（1名）・國士館大学（1名）

新垣 志穂	沖縄県立芸術大学	工芸
佐藤 亜希子	沖縄県立芸術大学	絵画
嘉手苅 みゆき	沖縄県立芸術大学	工芸
林 啓太	沖縄県立芸術大学	聴講

仲 本 桃 子	沖縄県立芸術大学	聴講
宮 里 昌 子	沖縄県立芸術大学	聴講
仲宗根 美 智	沖縄県立芸術大学	聴講
照 屋 正 剛	九州産業大学	美術
徳 田 安 史	國土館大学	東洋史

第2回 沖縄国際大学（12名）・東京女子大学（1名）・名古屋芸術大学（1名）

安 室 淳 子	沖縄国際大学文学部	履修生
廣 山 洋 一	沖縄国際大学文学部	履修生
黒 島 善 仁	沖縄国際大学文学部	商学科
茂 莉 綾 子	沖縄国際大学文学部	英文学科
神 谷 高 成	沖縄国際大学文学部	社会学科
神 谷 朋 恵	沖縄国際大学文学部	社会学科
積 ゆかり	沖縄国際大学文学部	社会学科
平 良 香	沖縄国際大学文学部	社会学科
中 里 昭 夫	沖縄国際大学文学部	社会学科
長 島 誠	沖縄国際大学文学部	社会学科
富 里 香 織	沖縄国際大学文学部	社会学科
前 富 里 英 義	沖縄国際大学文学部	社会学科
大 林 彩 子	東京女子大学	日本文学科
川 平 奈津子	名古屋芸術大学	デザイン学科

第3回 琉球大学（13名）

山 里 昌 次	琉球大学法文学部	聴講生
森 俊 雄	琉球大学理学部	聴講生
山 里 将 之	琉球大学法文学部	人文学科
狩 俣 利 奈	琉球大学法文学部	人文学科
宮 城 文 子	琉球大学法文学部	人文学科
畠 田 礼 美	琉球大学法文学部	人文学科
佐 藤 悠 介	琉球大学理学部	海洋学科
喜 友 名 朝 彦	琉球大学理学部	生物学科
砂 川 明 子	琉球大学理学部	生物学科
藤 森 真理子	琉球大学理学部	生物学科
林 顕 尚	琉球大学理学部	生物学科
宮 城 和 野	琉球大学理学部	生物学科
増 野 高 司	琉球大学農学部	環境学科

VII 資料の収集・保存管理

1 収蔵資料現在高

平成11年3月31日現在

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	602	25,429	6	2	26,039
	動物	1,105	18,290	480	13	19,888
	植物	15	850			865
美術工芸	絵画	511	879	48	3	1,441
	書跡	81	519	5		605
	彫刻	5	114	132		251
	陶磁器	442	3,287	249	495	4,473
	漆器	240	203	162		605
	染織	1,087	1,542	10		2,639
	工芸		1			1
歴史資料	2,456	6,043	339	125	8,963	8,963
考古資料	8	3,583	975	15	4,581	4,581
民俗資料	543	3,377	581	78	4,579	4,579
総計	7,095	64,117	2,987	731	74,930	74,930

2 平成10年度（1998）新収蔵資料高

平成11年3月31日現在

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質		4			4
	動物		16	3		19
	植物					
美術工芸	絵画	1	16			17
	書跡	4	1			5
	彫刻					
	陶磁器		80		3	83
	漆器		2			2
	染織	1				1
	工芸	1				1
歴史資料	9	347			356	356
考古資料		1			1	1
民俗資料		94			94	94
総計	15	562	3	3	583	583

3 平成10年度（1998）新収蔵資料目録

寄贈の部

(平成10年4月1日～平成11年3月31日)

分類	品名	数量	寄贈者名	所在地
自然史資料	地質 安山岩 岩石（大東石灰岩） オオジャコ化石 チュウダイサギ（本剥製）他 シロガシラ（仮剥製）他 キンバト（本剥製） サンコウチョウ（本剥製） キクイタダキ（本剥製） ハブ（骨格標本） イリオモテヤマネコ（骨格標本）他	1 1 1 1 5 5 1 1 1 1 2	株がきや興産 當間 隆 株与儀組 上江洲 盛元 沖縄こどもの国 伊敷 幸明 本成 尚 藤本 治彦 田村 昭夫 沖縄県衛生環境研究所 環境庁西表野生生物保護センター	那霸市 仲里村 北大東村 仲里村 沖縄市 糸満市 石垣市 具志川市 鳥取県 大里村 竹富町
	絵画	琉球風俗図	1	伊藤 勝一
	"	光と影の世界シリーズ（Shioya-Ogimi）他	15	金城 美智子
	書跡	全魁書「五言絶句」	1	銘苅 朝則
	陶磁器	焼締龍山水獅子盛付壺	1	高江洲 忠
	"	紫泥八角鉢他	66	金城 増治
	芸	色絵牡丹雉文壺他	13	銘苅 朝則
	資	朱漆仏桑花文堆錦花生他	2	銘苅 朝則
	料	わきざし	1	屋良 利正
	考古資料	軒瓦	1	金城 増治
	歴史資料	重修石火矢橋碑文拓本 和文タイプライター 屋宜家住宅模型 賞状他 富川盛正他宛辞令書等 『中学新地理』他 軽便鉄道模型 ひめゆり学徒の人形他 『月刊民芸』創刊号他 銅鏡他 月刊『琉球』他 第5回内国勧業博覧会俯瞰之図他 葉きょう他 祖国復帰記念メダル 復帰記念ふろしき	2 1 1 2 71 7 1 2 9 31 7 205 3 1 4	豊見城村村史編纂室 嘉納 専英 吉田 朝啓 五十嵐 熙 富川 益郎 新城さやか 島仲 武 三好 明 新城 栄徳 金城 増治 Nancy Woodma 伊藤 勝一 比嘉 春子 石川少年自然の家 伊波 悅子
民俗資料	三線「健堅与那」 US製飯合他 燈他 マーラン船模型（台付）他 角盆他 『琉球箏曲工工四』（上巻） レコード（琉球古典音楽安富祖流師範・金城良仁集 ニクブク（薺）他	1 8 7 3 17 1 16 17	屋宜 盛次 武富 香都 金城 増治 銘苅 朝則 Nancy Woodma 讚井 正美 祖慶 剛 幸地 順進	アメリカ 那霸市 那霸市 浦添市 アメリカ 西原町 那霸市 那霸市

分類	品名	数量	寄贈者名	所在地
民俗資料	ポンプ（鋳物製）他	2	加島 文子	糸満市
"	御殿型厨子甕他	5	大嶺 正光	那霸市
"	三線ケース	1	大城 守成	那霸市
"	甕型厨子甕他	4	瑞慶覧 長吉	那霸市
"	ビンシー（瓶）	1	伊波 晨雅	西原町
"	火鉢（陶磁器製）	1	与儀 喜一郎	那霸市
"	三線「真壁型銘志多伯開鐘写」他	5	新城 保子	那霸市
"	那霸大綱挽の首里代表旗「瑞雲」	1	瑞雲同好会	那霸市
"	ケー（衣装箱）	1	宮城 生慎	那霸市
"	英文タイプライター	1	畠中 敏子	奈良県
"	石香炉	1	神谷 厚昭	那霸市
"	馬の皮張り三線	1	神村 真紀子	浦添市

移管の部

分類	品名	数量	備考
陶磁器	愛のシーサー原型素焼シーサー	3	県議会事務局総務課より移管

収集の部

分類	品名	数量	備考
動物	ハゲブダイ（本剥製）	1	学芸員による
"	コバンヒメジ（本剥製）	1	"
"	カンモンハタ（本剥製）	1	"

購入の部

分類	品名	数量	備考
絵画	琉球風俗画	1	
書跡	竹林書	1	
"	翁宏烈書	1	
"	揚文彬書	1	
"	武勇義書	1	
染織	絹白地緯縫着物	1	
歴史資料	琉球砂糖札	2	
"	大島砂糖札	1	
"	旧首里城正殿鐘（樹脂製レプリカ）	1	委託料で製作
"	沖縄対話（下）	1	
"	日露戦争関係号外新聞	1	
"	琉球賀慶使略	1	
"	琉球人行列図	1	
"	琉球恩謝使略	1	

4 所蔵の指定文化財

国指定重要文化財

平成11年3月31日現在

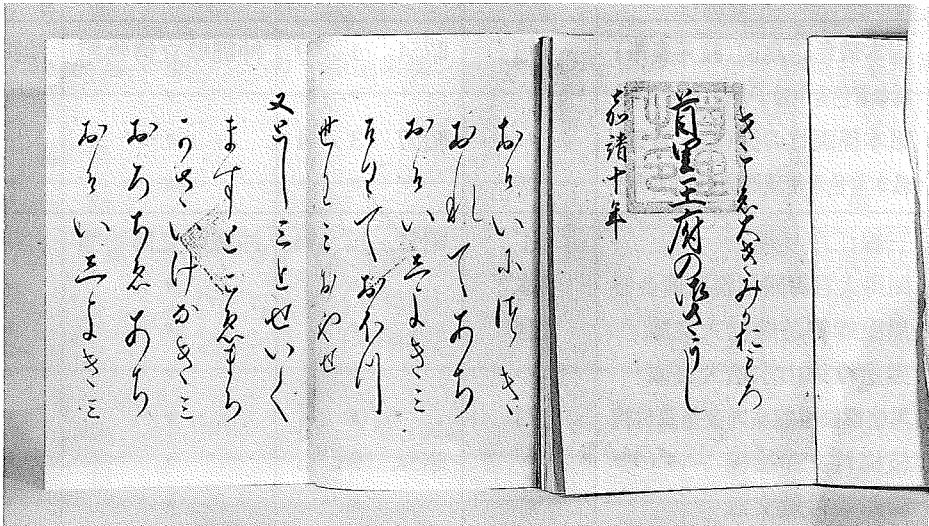
種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書・典籍	おもうさうし	22冊	昭48. 6. 6	沖縄県立博物館	沖縄県
"	混効験集	2冊	"	"	"
工芸品	銅鐘(旧首里城正殿鐘)	1口	昭53. 6. 15	沖縄県立博物館	沖縄県
"	梵鐘(旧円覚寺殿前鐘)	3口	"	"	"
"	梵鐘(旧円覚寺殿中鐘)				
"	梵鐘(旧円覚寺樓鐘)				

沖縄県指定有形文化財

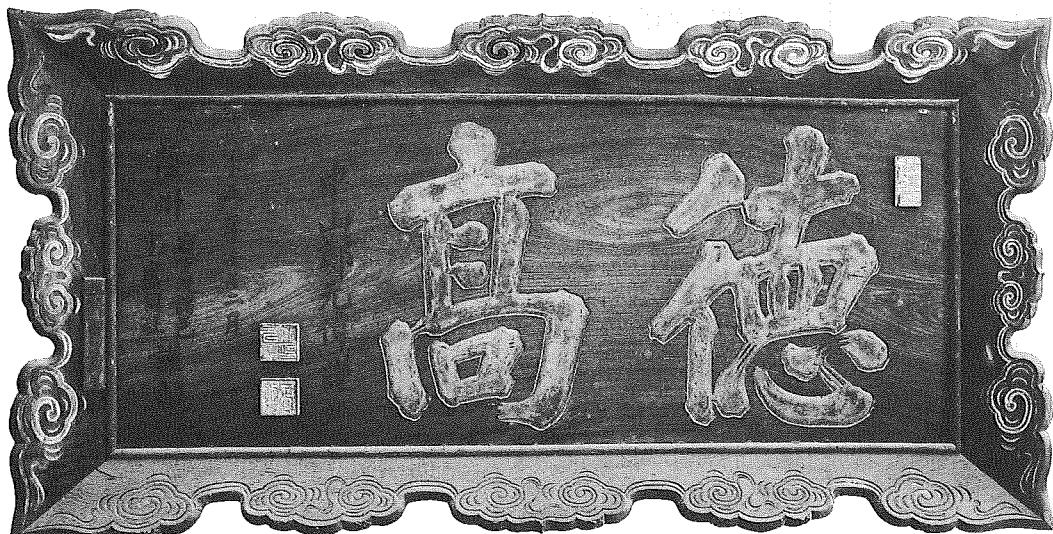
平成11年3月31日現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	1駄1枚	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
"	世持橋勾欄羽目	1括	"	"	"
絵画	絹本着色花鳥図(殷元良筆)	1幅	昭54. 4. 9	沖縄県立博物館	沖縄県
"	紙本着色雪中雉子の図(殷元良筆)	"	"	"	"
"	紙本墨画竹の図(殷元良筆)	"	昭57. 3. 4	"	"
"	紙本着色奉使琉球図(朱雀年筆)	1巻	"	"	"
工芸品	三線江戸与那	1丁	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
"	聞得大君御殿型雲龍黄金簪	1本	"	"	"
"	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	"	"	"
"	黒塗堆錦山水絵大文庫	"	"	"	"
"	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1口	"	"	"
"	枝梅竹文赤絵椀	"	昭54. 9. 3	"	"
"	線彫染付魚文皿	"	"	"	"
"	色象嵌粟絵菊花皿	"	"	"	"
"	象嵌色差面取抱瓶	"	"	"	"
"	梵鐘(旧靈応寺鐘)	1口	昭60. 6. 18	"	"
"	梵鐘(旧普門禪寺鐘)	"	"	"	"
"	梵鐘(旧天竜精舎鐘)	"	"	"	"
"	梵鐘(旧天尊殿鐘)	"	"	"	"
"	梵鐘(旧天妃宮鐘)	"	"	"	"
"	梵鐘(旧一品権現鐘)	"	"	"	"
"	梵鐘(旧大安禪寺鐘)	"	昭63. 1. 12	"	"
"	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2. 2. 6	"	"
"	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1基	"	"	"
"	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1具	"	"	"
"	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	"	"	"	"
"	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	"	"	"
"	梵鐘(旧永福寺鐘)	1口	"	"	"
"	三線盛鳴開鐘	1丁	平6. 3. 15	"	"

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
典籍	評定所格護定本 中山世鑑 " 中山世譜	6冊 19冊	昭31. 12. 14 " " "	沖縄県立博物館 " " "	沖縄県 " " "
書跡	程順則の書 扁額「徳高」鄭元偉書 扁額「凌雲」林麟焬書	1巻 1面 1面	昭42. 4. 11 平元. 9. 29 " " "	沖縄県立博物館 " " "	沖縄県 " " "
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書 明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書 伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書 羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅 1巻 1通 1幅	昭31. 12. 14 昭49. 11. 11 昭53. 4. 1 昭56. 3. 20	沖縄県立博物館 " " "	沖縄県 " " "
歴史資料	銅鐘残欠(旧波之上宮朝鮮鐘) 安國山樹花木記碑	1点 1基	昭60. 6. 18 平元. 9. 29	沖縄県立博物館 " " "	沖縄県 " " "



国指定重要文化財（古文書・典籍）「おもろさうし」



沖縄県指定有形文化財（書跡）扁額「徳高」鄭元偉書

5 収蔵資料整理事業（担当：嵩原建二・津波吉聰・太田健一）

1 事業の目的と経過

沖縄県立博物館は、沖縄陳列館（昭和20年開館）を前身として54年の歴史を持ち現在74,930件の資料が収蔵されている。この約50年間に合併・移転、さらに復帰による機構改革などにより、収蔵資料の管理においては未整備の状況が見られる。このことから平成12年以降の新館開館移転のために、統一された収蔵資料の整理を早急に行うことが求められ、未登録資料の整理登録、収蔵資料の整理・保管等収蔵資料の移動にもれがないような効率的な移転準備作業の一環として、収蔵資料整理作業は取り組まれた。特に収蔵する厨子甕の実測整理や収蔵古写真の複製と整理保管については、委託業務として実施した結果、整理作業に進捗が見られる。

また、マルチ・メディア時代に対応して、県民及び来館者のニーズに答えるためには、収蔵品台帳や原簿等による収蔵資料の管理保管だけでなく、博物館情報のネットワーク化を推進していくことが不可欠である。このことから利用に応じた収蔵資料一覧表の作成や収蔵資料の検索等が可能になるように収蔵資料管理システムを充実させることが必要であり、これはまた教育普及の観点からも、大切なことである。したがって、この機会に収蔵品台帳等収蔵資料の管理を電子化（コンピューター化）することも大きな目的として取り組まれた。その整備過程においては充実した機材等のハードウェア整備とともに、それを機能させるソフトウェアと収蔵資料情報となる文字データや画像データの充実が必要であり、博物館の収蔵資料に関する情報を広く来館者に公開するため、この両面から収蔵資料管理システムデータベースの充実整備を継続的に行ってきました。

2 事業の内容

資料整理事業はこれまで、次の3つの作業分野に分けて実施した。

◎収蔵資料整理作業

- 収蔵資料の台帳整理・未登録資料の整理登録
- 収蔵資料へのナンバーリング
- 保管庫・整理棚の設置（プレハブリース・棚の製作）
- 写真パネル等の作成・整理
- 厨子甕の実測・整理作業
- 自然史標本の作成

◎台帳電子化（コンピューター化）作業

- データベースシステムの開発・導入・運用
- システムのハード機器及びソフトウェアの整備
- 収蔵資料データ入力（文字・画像データ）等データ整備
- 台帳原簿の印刷

◎写真撮影及び写真整理作業

- 収蔵資料の写真撮影と写真・フィルムの整理・保管
- 収蔵古写真の複製・整理作業
- 歴史資料のマイクロ化

3 平成10年度事業実績

平成10年度は特に以下の事業を中心に実施した。

(1) 資料整理作業

- ◎各分野収蔵資料の整理（台帳照合及び未登録資料の整理等）
- ◎自然史資料の製作（委託）
- ◎各分野整理棚製作（委託）

(2) 台帳電子化（コンピューター化）作業

- ◎収蔵資料管理用データベースシステムの整備（ハード及びソフトウェアの増設）
- ◎収蔵資料管理用データベースへのデータ入力（図書受入資料・新収蔵資料）
- ◎システムのメンテナンス・拡張（委託）
- ◎収蔵台帳印刷

(3) 収蔵写真整理等

- ◎収蔵古写真の写真パネル作成

（備考：平成11年度以降も継続してこれらの事業を行う予定である。）

6 資料貸出

- (1) 展示会名：日本文化のあけぼの
主 催：国立歴史民俗博物館
開催場所：同上
貸出期間：平成10年4月1日～平成11年3月31日
貸出資料：考古資料／市来式土器
- (2) 展示会名：常設展示（第4室「収容所から」）
主 催：沖縄県立平和祈念資料館
開催場所：同上
貸出期間：平成10年4月1日～平成11年3月31日
貸出資料：美術工芸資料／社壇万寿寺石獅子他
- (3) 展示会名：「沖縄県立博物館所蔵品にみる 沖縄の美術工芸」
主 催：大分県立芸術会館
開催場所：同上
貸出期間：平成10年5月19日～7月22日まで
貸出資料：美術工芸資料・民俗資料／座間味庸昌作「雪中雉子の図」他72件
- (4) 展示会名：第5回企画展「琉球の生きもの」
主 催：群馬県立自然史博物館
開催場所：同上
貸出期間：平成10年6月1日～9月20日
貸出資料：自然史資料／剥製資料24件、化石資料1件
- (5) 展示会名：「琉球切手発行50年記念切手展」
主 催：沖縄郵政管理事務所
開催場所：沖縄通信博物館（オキコム）
貸出期間：平成10年7月22日～8月1日
貸出資料：美術工芸資料／琉球切手原画35点
- (6) 展示会名：「沖縄のやきもの」—南海からの香り—
主 催：佐賀県立九州陶磁文化館
開催場所：同上
貸出期間：平成10年8月18日～11月5日
貸出資料：美術工芸資料（陶器46点／染織7点）・写真パネル16点
- (7) 展示会名：第61回企画展「沖縄一衣と食の文化誌一」
主 催：群馬県立歴史博物館
開催場所：同上
貸出期間：平成10年9月24日～12月10日
貸出資料：美術工芸資料（30件）・民俗資料（40件）
- (8) 展示会名：「弥生人のタイムカプセル」展
主 催：福岡市博物館
開催場所：同上
貸出期間：平成10年10月2日～12月6日
貸出資料：考古資料／具志頭城出土明刀銭1点

- (9) 展示会名：流出文化財に関するシンポジウムにおける展示
主 催：琉米歴史研究会
開催場所：沖縄コンベンションセンター大会議室
貸出期間：平成10年10月12日～10月14日
貸出資料：戦前の写真パネル28件
- (10) 展示会名：「日本のわざと美」展—重要無形文化財とそれを支える人々—
主 催：文化庁他
開催場所：浦添市美術館・ふくやま美術館
貸出期間：平成10年10月26日～平成11年2月26日
貸出資料：美術工芸資料／金城次郎作品1点、宮平初子作品1点
- (11) 展示会名：黎明館企画特別展「海洋国家・薩摩一薩摩に鎖国はなかったー」
主 催：鹿児島県歴史資料センター黎明館
開催場所：同上
貸出期間：平成11年1月26日～3月14日
貸出資料：歴史・美術工芸・民俗資料／進貢船の模型他24件
- (12) 展示会名：特別企画展“「日本列島に生きる未来への遺産」一天然記念物の野生動物ー”
主 催：国立科学博物館
開催場所：同上
貸出期間：平成11年2月4日～平成11年6月10日
貸出資料：自然史資料／ケラマジカ本剥製他6点
- (13) 展示会名：企画展示『新弥生紀行—北の森から南の海へー』
主 催：国立歴史民俗博物館・朝日新聞社
開催場所：国立歴史民俗博物館他（6ヶ所の巡回展）
貸出期間：平成11年2月9日～平成12年4月30日
貸出資料：考古資料／蝶形骨製品2点、自然史資料／剥製3点

7 燻蒸処理

当博物館には、国・県指定文化財及びこれまでに購入・寄贈ならびに収集活動で得た文化財や資料が約7万点余りある。それらの資料は害虫その他の有害菌から防除し、資料の適切な保存を行うために、館内の燻蒸による害虫駆除を年1回行っている。

平成10年度は6月22日から26日までの期間を開館して実施した。地下・1階・2階の各収蔵庫のほかに、各展示室、首里城正殿模型、扁額「徳高」、湧田窯プレハブをメチルプロマイドによって燻蒸し、その他の事務室・講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除を行った。

VIII 刊行物

刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
沖縄県立博物館年報 No.31 (平成10年度)	定期	1,000	B5 (87)	平成10度の当館の活動状況や概要
沖縄県立博物館紀要 第25号	定期	1,000	B5 (200)	学芸員の調査研究報告書
特別展「包むこころ ふろしき展」図録	不定期	1,000	A4 (143)	11月17日から12月20日まで開催された同特別展図録
「平成9年度新収蔵品展」図録	定期	1,000	B5 (12)	平成9年度に寄贈・購入・収集等で収蔵された資料を紹介する収蔵品展の図録
企画展「琉球王国時代の植物標本 ～ペリーが持ち帰った植物たち」 図録	不定期	1,000	A4 (100)	7月10日から8月9日まで開催された同企画展の図録 (実行委員会編)
平成10年度子ども体験教室	定期	1,000	A4 (43)	平成10年度の教育普及事業としての児童生徒を対象とした体験学習の記録
平成10年度ボランティア活動	不定期	1,000	B5 (41)	平成10年度のボランティア活動記録集
博物館だより No.40	不定期	1,500	B5 (6)	当館の行事等を紹介する広報誌
博物館だより No.41	不定期	1,500	A4 (4)	"
年間行事案内リーフレット	定期	10,000	A4三つ折り	当年度の行事案内
年間ポスター	定期	1,000	B2 変形	当年度の年間行事案内
日本文リーフレット	定期	6,6000	A4 変形	当館の展示内容紹介
移動博物館リーフレット	定期	2,000	B5 (13)	伊是名島で開催された移動博で展示する資料を紹介したリーフレット
移動博物館チラシ	定期	2,000	B5	伊是名島で開催された移動博を案内したチラシ
移動博物館ポスター	不定期	100	A2	伊是名島で開催された移動博を案内したポスター

IX その他の活動

1 沖縄県博物館協会

平成10年度の総会・春期研修会は、6月25~26日に今帰仁村歴史文化センターで、会員54名の参加の下に開催された。

総会は、仲嶺博富氏（沖縄貝殻標本館学芸員）の司会で、会長の當間一郎のあいさつに始まり、今帰仁村歴史文化センター運営委員の喜屋武加代子氏の今帰仁方言（字崎山の方言）を交えてのユーモアあふれる歓迎のあいさつ、引き続いて長年当協会の理事として貢献のあった宮城章（元沖縄県平和祈念資料館館長）と島袋茂盛（元名護博物館館長）両氏への感謝状授与があり、その後にいくつかの議事が討議され、ほぼ事務局の案の通り決定された。また、審議の後に秋期研修会会場の瀬戸内町立図書館郷土館館長の徳永茂二氏から奄美研修への案内があり、会員一同秋期研修会への夢を膨らませた。総会の後、「山原の歴史と文化—歴史文化センターの活動から」というタイトルで、今帰仁村歴史文化センター館長の仲原弘哲氏の講演があった。その概要を記すと、歴史文化センターづくり、山原の歴史と文化、調査研究活動の成果、調査の目的と方法の順に話があり、歴史文化センターが地域とどう関わらなければならないか、といった問題提起が投げかけられた。その後、恒例の懇親会で石野裕子の名司会（？）の下、会員相互の親睦が深められた。

翌日の26日、仲原弘哲館長と石野裕子学芸員の案内で今帰仁村内の現地研修会がもたれた。コースは今泊のコバティシ→親泊ムラのフブハサギ→津屋口墓→諸志御嶽の植物群落→崎山の神ハサギ→池城の墓→仲原馬場→乙羽岳展望台→源為朝渡来伝説の碑→百安司の墓→大西の墓→運天港と間切番所跡と盛りだくさんで、駆け足の案内ながら、仲原館長の詳しい説明で、有意義な現地研修であった。

秋の研修会は、10月7日(水)~8日(木)の両日、奄美大島の瀬戸内町図書館郷土館で開催された。沖縄県から参加した一行は、6日午後の便で奄美入りし、空港で瀬戸内町立郷土館の町さんの迎えを受け、早速バスで笠利町歴史民俗資料館、奄美博物館の見学に向かった。翌日は朝の8時30分から、昨日できなかつた瀬戸内町図書館郷土館の見学を行つた。當間一郎沖博協会長のあいさつに続き西田俊男瀬戸内町教育長の歓迎のあいさつを受け、すぐに研修会に入った。講演は「瀬戸内町の歴史から琉球へ」と題して、奄美医療生協の弓削政巳氏が行った。奄美と沖縄のつながりを、冠船渡来・貢物・家人など、多面的に検証し、綿密に資料に当たつての実証的な歴史研究に裏打ちされた素晴らしい講演であった。また、地域の歴史研究から逆に琉球全体に問題提起を行うような内容で実のある講演であった。講演の時間が短く、ゆっくり説明の時間がとれなかつたのが残念である。

早めの昼食を済ませ、加計呂麻巡りの現地研修会に出発。諸鈍の大屯神社・林家跡→渡連の磨文主一族の墓群→安脚場の戦争遺跡→呑の浦の島尾敏雄文学碑・旧日本軍特攻基地跡→木慈のアシャゲとトネヤ→武名のアシャゲ→俵の郷土資料室→瀬相のアシャゲ→古仁屋のコースで内容の濃い現地研修会であった。

夕方からは恒例の懇親会。町長をはじめ、教育長、文化協会の会長も参加し、町を上げての歓待を受け、奄美と沖縄の絆が益々深まる思いであった。

2 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかる」ことを目的として1980年の1月に発足してから18年目を迎えた。その間会員も増加の傾向にある。本年は家族会員が60家族となり、家族ぐるみで博物館友の会と関わりを持つ人が増えてきている。また友の会の活動も年間をとおしての事業に加えサークルなどの活動も活発化し、充実してきている。本年は友の会内部に会則検討委員会が置かれ、活動の効率化という観点から十分な議論が積み重ねられてきた。1998年度決算報告書による実績は、8,160,430円であった。また会員は593名、賛助会員9社、家族会員60家族となっている。

1999年5月17日(水)には1999年度の総会が本館講堂で開かれ、新役員や予算および事業計画等が審議・決定されて新たな活動を開始した。

(1) 事業

- ①親子自然観察会：5月23日(土)
末吉公園でホタルの観察会を藤井晴彦氏の解説で実施した。参加者：32名
- ②星座観察会：6月27日(土)～28日(日)
渡嘉敷青年の家指導員の解説で星座の観察会を実施した。参加者：40名
- ③首里周辺めぐり：7月19日(土)
首里下儀保の史跡めぐりを宮里朝光氏の解説で実施した。参加者：23名
- ④離島めぐり：7月11日(土)～12日(日)
粟国島の史跡めぐりを与那城義春、末吉盛勇両氏の解説で、自然観察会及び史跡めぐりを実施した。参加者：41名
- ⑤南部の史跡めぐり：8月30日(日)
南部の史跡（大里グスク、嘉手志川、真壁グスク、佐慶グスクほか）を當眞嗣一氏の解説で実施した。参加者：43名
- ⑥那覇市内史跡めぐり：9月12日(土)
那覇市内の史跡（雨乞御嶽、ユワヤー跡、泊学校跡、天久宮ほか）
参加者：23名
- ⑦県外研修（長崎・五島列島）：9月20日(日)～23日(水)
「長崎・五島列島研修の旅」を萩尾俊章学芸員の解説で実施した。参加者：36名
- ⑧綱引き見学会：9月20日(日)
大里村大城区の史跡めぐり及びシタク綱見学を我如古弥永氏の解説で実施した。参加者：16名
- ⑨文化キャラバン隊：10月17日(土)～18日(日)
台風のため伊是名派遣中止となる。
- ⑩海外研修：10月10日(土)～18日(日)
中国陶磁器（南方名器窯）と江南の旅をテーマに松島朝義氏の解説で実施した。参加者：29名
- ⑪豊見城村の文化財めぐり：11月21日(土)
豊見城村東部史跡（瀬長グスク、ウーガー、豊見城グスクほか）を阿波根直孝氏の解説で実施した。参加者：22名
- ⑫グスクめぐり：12月12日(土)
中部のグスク（安慶名グスク、伊波グスク、宜野座村立博物館の見学会）を大城慧学芸課長の解説で実施した。参加者：41名
- ⑬展示室解説会（民俗室）：2月27日(土)
民俗展示室の解説会を太田健一学芸員の解説で実施した。参加者：34名
- ⑭講演会：3月27日(土)
上里賢一氏を講師に迎え、「琉球漢詩に見る中国」という演題で講演会を実施した。参加者：45名

(2) 会員への情報提供

- 博物館事業及び催し物の案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

(3) 会誌（博友）13号・会報（赤い瓦）19号の発行

(4) ミュージアムショップの経営

出版物・ミニ絵巻・絵はがき・委託図書・玩具・テレホンカード・フィルム・飲み物等の販売サービス

(5) その他

- サークル活動：歴史サークル、グスクサークル、拓本サークル
- 総会及び懇親会（1998年5月18日）参加者：65名
- 新年会（1999年1月18日）参加者：70名



太田学芸員による民俗展示室の解説会



那覇市内史跡（崇元寺石門）めぐり

X 関係法規抄録

○博物館法 昭和26.12.
法律第285号

〔最近改正〕平成5・11・12法律第89号

第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関する必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- (3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に關し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受け文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- (9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する國の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
- (10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに當つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

(1) 学士の学位を有する者で、大学において文部省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの

(2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの

(3) 文部大臣が、文部省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者

2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法（昭和22年法律第26号）第56条の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

(1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所

(2) 名称

(3) 所在地

2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。

(1) 公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

(1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。

(2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。

- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

(報告の義務)

第17条 都道府県の教育委員会は、文部大臣に対し、その求めに応じて、当該教育委員会において登録した博物館に関し必要な事項について報告しなければならない。

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験者のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設定する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 博物館協議会の委員については、社会教育法第15条第3項及び第4項の規定を準用する。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備

に要する軽費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- (1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。
- (2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関する、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雜則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあつては文部大臣が、他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附則

(施行期日)

1 この法律は、交付の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

2 第6条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令 昭和27. 3. 20
政令第47号

〔最近改正〕昭和34年4月30日政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法(以下「法」という。)第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社
- 2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附則

この政令は、交付の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例(抄) 昭和47. 5. 15
法律第24号

〔最終改正〕平成6年12月27日条例第42号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10条及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基き、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

- 2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則(抄) 昭和47. 5. 15
教育委員会規則第2号

〔最終改正〕平成10年3月31日教育委員会規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

- 2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

- (1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

- (1) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則 昭和47. 5. 45

教育委員会規則第13号

〔最終改正〕平成7年5月2日教育委員会規則第9号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならぬ。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損修し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示をうけなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日

- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）の規定する日（こどもの日及び文化の日を除く。）
- (3) 慰霊の日 6月23日
- (4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで
- (5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで
- (6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもつて、これを替えるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、館長が特に必要と認めた場合は、開館することができる。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 委託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の賄請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館料の免除)

第16条の2 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）第4条の規定により入館料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

- (1) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合
- (2) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、理学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週5日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合
- (3) 前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合

2 前項第1号又は第3号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書（第4号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

(入館の禁止等)

第17条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認める者
- (2) 伝染病患者及びめいていき者と認められる者
- (3) その他館長が適当でないと認める者

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第5号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合には博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わつたときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規定の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附則（平成元年3月31日教育委員会規則第4号）

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附則（平成4年8月28日教育委員会規則第7号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附則（平成5年2月16日教育委員会規則第1号）

この規則は、平成5年2月16日から施行する。

附則（平成7年5月2日教育委員会規則第9号）

この規則は、平成7年5月2日から施行する。

第1号様式（第11条関係）

第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書
沖縄県立博物館長 殿 年 月 日

申込者
住所
氏名

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

記

- 1 種別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 資料の所在地
- 7 時価見積額
- 8 寄贈の理由

受諾書

上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料について
は、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規
則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長

博物館資料寄託申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申込者
住所
氏名

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださ
るよう申込みます。

記

- 1 種別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 資料の所在地
- 7 寄託期間 平成 年 月 日から 年 月 日まで
- 8

(印)

第3号様式(第11条関係)

博物館資料受託承認書

平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館
長

(印)

平成 年 月 日 付け申請のあつた博物館の寄託については、
下記により受託します。

記

- 1 種別
2 作者名
3 作品名
4 製作年月日
5 附属品
6 受託期間 平成 年 月 日から
平成 年 月 日まで
7 備考

第4号様式(第16条関係)

入館料免除申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者住所
氏名
電話

下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則(昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号)第16条の2第2項に基づき申請します。

- 1 入館者 団体名 記
2 入館者数 人
3 入館日時 年 月 日 (曜日)
4 申請理由
.....

承認証

年 月 日 付け申請の博物館の入館料免除の件、申請どおり承認します。
年 月 日 沖縄県立博物館長

(印)

博物館施設使用許可申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者氏名 印

電話

下記により貴館施設を使用したいので許可してくださるようお願いします。

記

1 使用者

団体名及び

代表者名 ㊞ 職業（ ）

住 所 電話

2 使用目的

3 使用する施設： 1 ホール 2 臨時陳列室

4 使用する日時及び期間

自：平成 年 月 日 午 時 分（ ）

至：平成 年 月 日 午 時 分 日間

5 予定参加人員 人

6 その他必要な資料（プログラム等）

許 可 書

月 日付申請の（ ）使用の件、申請どおり許可します。

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 ㊞

○沖縄県立博物館協議会規則

昭和47. 10. 2

教育委員会規則第29号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に關し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関して必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例

昭和47. 5. 15

条例第37号

〔最終改正〕平成9年5月20日条例第12号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附則（平成9年5月20日条例第12号）

この条例は、平成9年6月1日から施行する。

別表第1（博物館の入館料）（第2条関係）

使 用 者	入 館 料
一 般	210円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体（20人以上）	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館年報 No.32

1999年7月10日

編集・発行：沖縄県立博物館

住 所：〒903-0823 那覇市首里大中町1-1

TEL 098-884-2243

FAX 098-886-4353

印 刷：株尚生堂

住 所：〒901-2114 浦添市安波茶1-6-3

TEL 098-876-2232

FAX 098-876-2332

1999年度沖縄県立博物館年間行事一覧

○特別展

三線のひろがりと可能性展 1999年8月3日(火)～9月5日(日)

○企画展

新収蔵品展 1999年6月22日(火)～7月18日(日)

日本の技－伝統のかたち－ 1999年10月26日(火)～11月7日(日)

工芸王国展 2000年2月8日(火)～2月27日(日)

○第24回 移動博物館－上野村－ 1999年11月19日(金)～11月21日(日)

○博物館文化講座

第291回植物観察会 1999年4月17日(土)

講師 佐久本 敏(元教頭) 宮城朝章(元教諭)

第292回 沖縄の祖先祭祀をめぐって 5月15日(土)

講師 赤嶺 政信(琉球大学助教授)

第293回 まじないの世界～沖縄の魔除けと呪符の歴史～ 6月19日(土)

講師 山里 純一(琉球大学教授)

第294回 金属文化の風景～神女の簪や盃を中心にして～ 9月18日(土)

講師 粟国 恭子(沖縄国際大学非常勤講師)

第295回 工芸技術の継承 10月30日(土)

講師 上江洲 敏夫(具志川市史編さん室長)

第296回 南部の遺跡めぐり 12月18日(土)

講師 大城 慧(県立博物館学芸課長)

第297回 野鳥観察会 2000年1月15日(土)

講師 与那城 義春(県立博物館学芸員)

第298回 歴史の道を歩く 2月19日(土)

講師 萩尾 俊章(県教育庁文化課文化財係長)

第299回 アジアの美術館事情 2月21日(土)

講師 前田 比呂也(県文化国際局文化振興課主査)

○夏休み親子文化講座(定員あり)

①海の危険な生物 1999年7月31日(土)

講師 新城 安哲(県立中央保健所主任技師)

島村 賢松(県文化環境部自然保護課主査)

②壺屋を見る・歩く 8月14日(土)

講師 西里 潤(那霸市史跡巡り案内講師)

③親子戦跡めぐり 8月28日(土)

講師 村上 有慶(沖縄職業能力開発短期大学助教授)

○子ども体験学習教室(定員あり)

①豆とサトウキビづくり 4月24日(土)／5月22日(土)／7月24日(土)／1月22日(土)

講師 仲底 善章(県立博物館学芸員)

②イノ－の生き物調べ 5月8日(土)／6月12日(土)／8月28日(土)

講師 玉城 哲弥(琉球大学理学部大学院)

③三線づくり 8月7日(土)・8日(日)・14日(土)・15日(日)・21日(土)・22日(日)

講師 上原 安敏(小禄中学校教諭)

④おじいちゃんとアンツクを作ろう 12月25日(土)／2月12日(土)／2月26日(土)

講師 前盛 幸吉(民間伝承研究家)

○博物館シアター

①中国映画の世界Ⅱ

王さんの憂鬱な秋 5月16日(日)

女人、四十 6月13日(日)

②夏休み親子シアター

ジャックと豆の木 7月25日(日)

白雪姫 8月8日(日)

③なつかしの名作

道 12月19日(日)